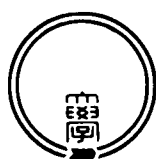


令和5年度

シラバス
＜履修ガイド＞

幼児保育学科



松本短期大学

目 次

I. 大学・学科暦	2
II. 履修科目	4
III. 講義概要〈シラバス〉	
1. 1年生	13
2. 2年生	55
IV. 教員担当科目一覧	91

I. 令和5年度(2023年)大学・学科暦

	日	月	火	水	木	金	土
4月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	⑲
	30						
	4/1 学年開始 4/4 入学式 4/5~7 前期オリエンテーション 4/10 前期授業開始 4/15 健康と運動Ⅱレクゲーム体験(2年生)						

	日	月	火	水	木	金	土
7月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	⑰	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
	7/22 オープンキャンパス						

	日	月	火	水	木	金	土	
5月		1	2	③	④	⑤	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31				
	5/20 健康と運動Ⅱレクゲーム学修(2年生) 5/29~6/9 教育実習(2年生)							

	日	月	火	水	木	金	土	
8月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	⑪	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
	8/2~4 前期期末試験 8/7~9/15 夏季休業 8/5・19 オープンキャンパス 8/17 前期期末試験成績発表 8/21 前期期末試験追再試 8/28~9/8 保育実習Ⅱ・Ⅲ							

	日	月	火	水	木	金	土	
6月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30		
	6/24 オープンキャンパス							

	日	月	火	水	木	金	土	
9月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	⑱	19	20	21	22	⑳	
	24	25	26	27	28	29	30	
	9/9 短大オープンキャンパス(介護のみ) 9/19 後期オリエンテーション 9/20 後期授業開始							

○ は休日

10月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	⑨	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
	10/7 短大入試 10/13～15 おとぎ祭						

1月	日	月	火	水	木	金	土
		①	2	3	4	5	6
	7	⑧	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
	1/5 授業再開 1/18 卒業研究発表会(2年生・午後) 1/24～26 後期期末試験 1/29～2/9 保育実習 I (保育所) (1年生)						

11月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	③	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	②③	24	25
	26	27	28	29	30		
	11/3 オレンジリボンたすきリレー(1年生) 11/6～17 教育実習(1年生) 11/18 短大入試						

2月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	⑪	⑫	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	②③	24
	25	26	27	28	29		
	2/3 短大入試 2/13 後期期末試験成績発表 2/16 後期期末試験追再試 2/19～3/4 保育実習 I (施設) (1年生)						

12月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						
12/9 短大入試 12/27～1/4 冬季休業							

3月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	⑳	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						
3/5 短大入試 3/13 短大入試 3/14 卒業生前日登校日 3/15 卒業式 3/31 学年終了							

II. 令和5年度 履修科目

1年生

幼児保育学科の授業カリキュラムは、以下に示した学則の別表第1にしたがって行われる。表の網掛け部分が1年生に組まれている授業科目である。

別表第1

幼児保育学科教育課程

授業科目の区分等	授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考			
			開設単位	必修	選択					
教養基礎科目	ひとの命と健康を考える	生命倫理	講義	2		2	30	合計10単位以上		
		健康と運動Ⅰ	講義	1	1		15			
		健康と運動Ⅱ	実技	1	1		30			
	ひとの可能性を考える	こころの科学	講義	2		2	30		教免必修	
	ひとの権利を考える	暮らしの中の憲法	講義	2		2	30			
	ひとの生活を考える	キャリア形成Ⅱ	講義	1	1		15		教免必修	
		地域交流実践	演習	1		1	30			
	学修の基礎力を培う	英語表現	演習	2	2		30			教免必修
		情報処理演習	演習	2		2	30			
		暮らしの中の数学	講義	2		2	30			
キャリア形成Ⅰ		講義	1	1		15				
小計			17	6	11	285				
専門教育科目	保育原理	講義	2	2		30	保育士必修			
	教育原理	講義	2	2		30				
	子ども家庭福祉	講義	2		2	30				
	社会福祉	講義	2		2	30				
	子ども家庭支援論	講義	2		2	30				
	社会的養護Ⅰ	講義	2		2	30				
	保育者論	講義	2	2		30				
	保育・教育の心理学	講義	2	2		30				
	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	30				
	子どもの理解と援助	演習	2	2		30				
	子どもの保健	講義	2		2	30				
	子どもの食と栄養	演習	2		2	30				
	教育課程の編成と評価	講義	2	2		30				
	保育内容総論	演習	1	1		15				
	保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現)	演習	2	2		30				
	保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係)	演習	2	2		30				
	保育内容の指導法Ⅲ(言葉)	演習	1	1		15				
	子どもと音楽表現	演習	1	1		15				
	子どもと造形表現	演習	1	1		15				
	子どもと健康	演習	1	1		15				
子どもと環境	演習	1	1		15					
子どもと人間関係	演習	1	1		15					
子どもと身体表現	演習	1	1		15					

授業科目の区分等	授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考
			開設単位	必修	選択		
専門教育科目	乳児保育Ⅰ	講義	2		2	30	保育士必修
	乳児保育Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子どもの健康と安全	演習	1		1	15	保育士必修
	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	演習	2	2		30	
	社会的養護Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子育て支援	演習	1		1	30	保育士必修
	いのちと環境	演習	2		2	30	保育士選択
	保育・教育相談	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	子どもの音楽Ⅰ	演習	2	2		30	
	子どもの音楽Ⅱ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと運動遊び	演習	2	2		30	
	子どもと絵本	演習	1		1	15	保育士選択
	ことばと表現	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅠ	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅡ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと造形表現論	講義	2		2	30	保育士選択
	幼児教育の方法	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	幼児保育特講	演習	2		2	30	保育士選択
	教育実習指導	演習	1		1	30	教免必修
	教育実習	実習	4		4	180	教免必修
	保育実習指導Ⅰ	演習	2		2	60	保育士必修
	保育実習Ⅰ	実習	4		4	180	保育士必修
	保育実習指導Ⅱ	演習	1		1	15	保育士：Ⅱ又はⅢ 選択必修
保育実習Ⅱ	実習	2		2	90		
保育実習指導Ⅲ	演習	1		1	15		
保育実習Ⅲ	実習	2		2	90		
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	2		30		
			84	32	52	1,680	
研究演習	基礎ゼミナール	演習	2	2		60	
	応用ゼミナール	演習	2	2		60	
小計			4	4		120	
合計			105	42	63	2,085	

※幼児保育学科の卒業最低単位数 選択必修を含む必修42単位 選択20単位 計62単位

内、教養基礎科目 必修6単位、選択科目の中から2科目以上4単位 計10単位

専門教育科目・研究演習 必修36単位、選択16単位、計52単位

※保育士：必修及び選択必修を除く、保育士選択科目から2単位以上を選択

※選択科目の履修単位数の上限：1年後期4単位 2年後期3単位（ただし教免必修、保育士必修、保育士選択を除く）

2年生

幼児保育学科の授業カリキュラムは、以下に示した学則の別表第1にしたがって行われる。表の網掛け部分が2年生に組まれている授業科目である。

別表第1

幼児保育学科教育課程

授業科目の区分等		授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考
				開設単位	必修	選択		
教養基礎科目	ひとの命と健康を考える	生命倫理	講義	2		2	30	教免必修 合計10単位以上
		健康と運動Ⅰ	講義	1	1		15	
		健康と運動Ⅱ	実技	1	1		30	
	ひとの可能性を考える	こころの科学	講義	2		2	30	
	ひとの権利を考える	暮らしの中の憲法	講義	2		2	30	
	ひとの生活を考える	キャリア形成Ⅱ	講義	1	1		15	
		地域交流実践	演習	1		1	30	
	学修の基礎力を培う	英語表現	演習	2	2		30	
		情報処理演習	演習	2		2	30	
		暮らしの中の数学	講義	2		2	30	
キャリア形成Ⅰ		講義	1	1		15		
小計				17	6	11	285	
専門教育科目	保育原理	講義	2	2		30	保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修 保育士必修	
	教育原理	講義	2	2		30		
	子ども家庭福祉	講義	2		2	30		
	社会福祉	講義	2		2	30		
	子ども家庭支援論	講義	2		2	30		
	社会的養護Ⅰ	講義	2		2	30		
	保育者論	講義	2	2		30		
	保育・教育の心理学	講義	2	2		30		
	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	30		
	子どもの理解と援助	演習	2	2		30		
	子どもの保健	講義	2		2	30		
	子どもの食と栄養	演習	2		2	30		
	教育課程の編成と評価	講義	2	2		30		
	保育内容総論	演習	1	1		15		
	保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現)	演習	2	2		30		
	保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係)	演習	2	2		30		
	保育内容の指導法Ⅲ(言葉)	演習	1	1		15		
	子どもと音楽表現	演習	1	1		15		
	子どもと造形表現	演習	1	1		15		
	子どもと健康	演習	1	1		15		
子どもと環境	演習	1	1		15			
子どもと人間関係	演習	1	1		15			
子どもと身体表現	演習	1	1		15			

授業科目の区分等	授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考
			開設単位	必修	選択		
専門教育科目	乳児保育Ⅰ	講義	2		2	30	保育士必修
	乳児保育Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子どもの健康と安全	演習	1		1	15	保育士必修
	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	演習	2	2		30	
	社会的養護Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子育て支援	演習	1		1	30	保育士必修
	いのちと環境	演習	2		2	30	保育士選択
	保育・教育相談	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	子どもの音楽Ⅰ	演習	2	2		30	
	子どもの音楽Ⅱ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと運動遊び	演習	2	2		30	
	子どもと絵本	演習	1		1	15	保育士選択
	ことばと表現	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅠ	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅡ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと造形表現論	講義	2		2	30	保育士選択
	幼児教育の方法	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	幼児保育特講	演習	2		2	30	保育士選択
	教育実習指導	演習	1		1	30	教免必修
	教育実習	実習	4		4	180	教免必修
	保育実習指導Ⅰ	演習	2		2	60	保育士必修
	保育実習Ⅰ	実習	4		4	180	保育士必修
保育実習指導Ⅱ	演習	1		1	15	保育士：Ⅱ又はⅢ 選択必修	
保育実習Ⅱ	実習	2		2	90		
保育実習指導Ⅲ	演習	1		1	15		
保育実習Ⅲ	実習	2		2	90		
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	2		30		
			84	32	52	1,680	
研究演習	基礎ゼミナール	演習	2	2		60	
	応用ゼミナール	演習	2	2		60	
小計			4	4		120	
合計			105	42	63	2,085	

※幼児保育学科の卒業最低単位数 選択必修を含む必修42単位 選択20単位 計62単位

内、教養基礎科目 必修6単位、選択科目の中から2科目以上4単位 計10単位

専門教育科目・研究演習 必修36単位、選択16単位、計52単位

※保育士：必修及び選択必修を除く、保育士選択科目から2単位以上を選択

※選択科目の履修単位数の上限：1年後期4単位 2年後期3単位（ただし、教免必修、保育士必修、保育士選択を除く）

Ⅲ. 講義概要〈シラバス〉

1. 幼 児 保 育 学 科
<1年生開講科目>

令和5年度 幼児保育学科1年生

授業科目の区分		No.	科目名	担当教員	開設時期	
					前期	後期
教養基礎科目	ひとの権利を考える	1	暮らしの中の憲法	金枝	○	
	ひとの生活を考える	2	キャリア形成Ⅱ	齋藤(博)		○
	学修の基礎力を培う	3	英語表現	黒澤	○	
		4	情報処理演習	高下	○	
		5	暮らしの中の数学	伊東		○
		6	キャリア形成Ⅰ	齋藤(博)	○	
専門教育科目	7	保育原理	生田	○		
	8	教育原理	黒田	○		
	9	子ども家庭福祉	田岡		○	
	10	社会福祉	田岡	○		
	11	社会的養護Ⅰ	田岡	○		
	12	保育者論	黒田		○	
	13	保育・教育の心理学	田中	○		
	14	子どもの理解と援助	田中		○	
	15	教育課程の編成と評価	黒田	○		
	16	保育内容 総論	生田		○	
	17	保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現)	山田、白金、米窪		○	
	18	保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係)	山藤		○	
	19	子どもと音楽表現	山田	○		
	20	子どもと健康	白金	○		
	21	子どもと環境	高橋	○		
	22	子どもと人間関係	山藤		○	
	23	子どもと身体表現	山田	○		
	24	乳児保育Ⅰ	高橋		○	
	25	社会的養護Ⅱ	田岡		○	
	26	子どもの音楽Ⅰ	山田、齋藤(博)、齋藤(俊)、高倉、山口、飯田、鎌倉、野田、輪湖	○		
	27	子どもと運動遊び	白金	○		
	28	ことばと表現	山藤	○		
	29	生涯スポーツⅠ	白金		○	
	30	幼児教育の方法	黒田		○	
	31	教育実習指導	高橋		○	
	32	教育実習	山田、生田、永石、白金、田中、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)		○	
	33	保育実習指導Ⅰ	生田、田岡		○	
	34	保育実習Ⅰ	山田、生田、永石、白金、田中、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)		○	
	研究演習	35	基礎ゼミナール	山田、生田、永石、白金、田中、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)	○	○

※下線は主担当

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
1	暮らしの中の憲法	2	30	選択 (免必)	講義	1年	前期	金枝 真佐尋	
実務経験と授業科目との関連性		弁護士としての経験を踏まえ、憲法における人権の基本的な考え方について、子どもと関わる職務に必要な人権感覚を身に付けられるような講義を展開する。							
講義目的		私達が生きてゆくうえで憲法はどのような役割を果たしているかを理解する。							
到達目標		1) 基本的人権の重要性を説明できる。 2) 憲法がどのような場面でどのような意義を持つのか、具体的に考えられる。							
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	憲法は何故大事か 憲法は権力をしぼる	ガイダンス、講義の進め方 立憲主義とは何か(憲法って意外と大事)			憲法の前文を読んでおく			
	2	子どもの人権も憲法で保障されている	子どもの人権と児童虐待の防止について			教科書 P.3 ~ 12			
	3	個人の人権はどうして大切なのか	プライバシー権とは何か自己決定する権利について			教科書 P.25 ~ 44			
	4	平等とはどういうことか 人の命に差があるか	男女の法の下での平等、尊属殺人と重罰について			教科書 P.45 ~ 68			
	5	宗教と個人の自由・表現の自由でポルノが問題になるとは	信教の自由の意味、表現の自由とポルノについて			教科書 P.69 ~ 88			
	6	教科書を自由に作れるか	教科書と出版の自由、検定問題について			教科書 P.122 ~ 130			
	7	健康で文化的な生活 何でも自由に営業できるか	生存権とは何か営業規制と営業の自由について			教科書 P.99 ~ 119			
	8	国は人の命を奪えるか	死刑制度と憲法について			教科書 P.131 ~ 140			
	9	平和に生きるために	憲法第9条と平和主義について			教科書 P.153 ~ 162			
	10	国民主権と天皇制の関係	憲法上天皇とはどのような役割か			教科書 P.142 ~ 152			
	11	法律が憲法に反したらどうするか	司法審査制と憲法について			教科書 P.207 ~ 215			
	12	なぜ2院制か 国会は何をすところ	衆議院と参議院について			教科書 P.164 ~ 182			
	13	内閣と総理大臣と議会の関係	議院内閣制とは何か 大統領制とはどのように違うか			教科書 P.184 ~ 194			
	14	地方のことは地方で決める 憲法は簡単に変えられるか	地方自治の本旨とは何か 憲法改正条項について			教科書 P.217 ~ 257			
	15	裁判はどのように行われるか	裁判の流れを学び、模擬裁判を体験する			資料(裁判のシナリオ)を読んでおく			
16	定期試験	筆記試験			これまでの復習をする				
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
1	ときに学生に質問しながら、テキストを中心に講義を行う。		初宿正典他「いちばんやさしい憲法入門第6版」(有斐閣アルマ)		なし		憲法を勉強して自分で考えることが重要です。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			授業終了後		なし	
定期試験		100	積極性を評価し上乘せ(但し100%を超えません) 目に余る態度は減点			受講前に学習すること			
模擬裁判出演		+20				教科書の該当項目について、よく読んでおいてください。			
受講態度		-X							

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
2	キャリア形成Ⅱ	1	15	必修	講義	1年	後期	齋藤 博紀	
実務経験と授業科目との関連性									
講義目的		社会の現状を把握しながら、自らのキャリアについて具体的な目標を定め、それを達成するための基礎的スキルを習得する。							
到達目標		1) 社会状況を踏まえながら、自身のキャリアデザインをすることができる。 2) 社会に出ていくための基礎スキルを理解し、実行できる。							
教育内容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員		
	1	オリエンテーション	授業の進め方と到達目標を確認する。				シラバスを読む		
	2	キャリアをデザインするとは	キャリアデザインの必要性とその考え方を理解し、求められる能力について考える。				事前・事後学修用の資料を読む		
	3	社会状況について	雇用状況や労働環境についての理解を深め、就職についてのイメージを持つ。				事前・事後学修用の資料に取り組む		
	4	言語表現力について	自分の思いや考えを表現する方法を学ぶ。				事前・事後学修用の資料に取り組む		
	5	ルールとマナーについて	社会人としての基本的なマナーと就職活動等における注意点について学ぶ。				事前・事後学修用の資料に取り組む		
	6	自己表現について	自身の性格や特徴を見つめ直し、自分を他者にアピールする方法を学ぶ。				事前・事後学修用の資料に取り組む		
	7	基礎学力について	自身の能力や知識について考える。				事前・事後学修用の資料に取り組む		
	8	行動計画とまとめ	学んできたことを振り返り、これからの自分について考え、行動計画を立てる。				振り返り、行動計画を見直す		
	9	定期試験	筆記試験				試験に向けて事前学修に取り組む		
DP	学修方法	テキスト		参考書		教員からのメッセージ			
1	配布資料をもとに講義や予習・復習を行います	松本短大 就職活動マニュアル 2023		なし		主体的・継続的な学習をしていきましょう。			
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準			月曜日3時限	なし		
定期試験		50	筆記試験						
レポート		50	記述内容			受講前に学習すること			
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
3	英語表現	2	30	必修	演習	1年	前期	黒澤 優子
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		保育を学ぶ学生のための教材を用い、英語力を高める。						
到達目標		英語の基礎力を養い、保育現場で使われるさまざまな英語表現を修得する。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	本授業の目的と進め方 テキスト第1課①	授業の目的と方法を理解する。自己紹介の表現を学ぶ。			テキスト p.6～7 を予習		
	2	テキスト第1課②	新学期・園の人々・園舎に関する英語表現を覚える。			テキスト p.8～9 を予習		
	3	テキスト第2課	登園・家族をテーマにした表現を習得する。			テキスト p.10～ 13を予習		
	4	テキスト第3課	室内遊び、欠席の連絡に関する表現を覚える。			テキスト p.14～ 17を予習		
	5	テキスト第4課	外遊び、遊具に関する表現を理解する。			テキスト p.18～ 21を予習		
	6	テキスト第5課	園庭・けんかに関する表現を覚える。			テキスト p.22～ 25を予習		
	7	Grammar1 (一般動詞・ba 動詞)	保育園をテーマにした文法練習問題を解く。			テキスト p.26～ 29を予習		
	8	テキスト第6課	昼食・献立表の表現を理解する。			テキスト p.30～ 33を予習		
	9	テキスト第7課	着替え・おはなしに関する表現を覚える。			テキスト p.34～ 37を予習		
	10	テキスト第8課	トイレ・お昼寝に関する表現を理解する。			テキスト p.38～ 41を予習		
	11	発表と課題	英語によるロールプレイや歌の発表およびプリント課題に取り組む。			発表の準備をしておく		
	12	テキスト第9課	病気・身体の名称を覚える。			テキスト p.42～ 45を予習		
	13	テキスト第10課	緊急連絡の仕方を理解する。			テキスト p.46～ 49を予習		
	14	Grammar2 (疑問文・否定文・命令文)	保育園をテーマにした文法練習問題を解く。			テキスト p.50～ 53を予習		
	15	まとめ	これまでの学習内容を確認する。			テキストやノートを用いて、前期に学習したことを思い出す		
16	定期試験	筆記試験			テキスト・プリント第1～10課をよく復習する			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1	テキストを中心に授業を進める。		森田和子「新・保育の英語」(三修社)		なし		保育園での生活を題材にした保育科学生のための英語テキストを用います。興味を持って学んでいただければと思います。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		授業終了後		なし	
定期試験		80	筆記試験					
平常点と課題		20	授業参加度、発表と課題の内容		受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
4	情報処理演習	2	30	選択 (免必)	演習	1年	前期	高下 梓	
実務経験と授業科目との関連性									
講義目的		パソコンにおける基本的なアプリケーションの操作を学び、幼児保育施設で通用するスキルを習得する。							
到達目標		1. インターネット利用のマナーと倫理を理解できる。 2. Word・Excel・PowerPointの基本操作を行うことができる。							
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員		
	1	オリエンテーション インターネットの利用マナー	パソコンの基本操作と、インターネット利用のマナーについて確認する。				初回の主題の確認		
	2	タイピングの確認	パソコンの入力・操作に必要なタイピングを練習する。				タイピングの練習		
	3	情報モラル	日常生活のなかで使用するツールや、メール送信・課題提出などにおける留意点を学ぶ。				タイピングの練習		
	4	情報セキュリティ対策	パソコンやインターネットの利用にあたって必要な情報管理についての留意点を学ぶ。				タイピングの練習		
	5	キーボードの確認	パソコンのキーボードの配置や、機能を確認する。				タイピングの練習		
	6	インターネット検索	インターネットを用いて知りたい情報を得る方法を学ぶ。論文検索の方法を学ぶ。				タイピングの練習		
	7	Wordの基本操作	Microsoft Wordのおもな機能を確認し、基本的な操作を行う。				タイピングの練習		
	8	Wordによる文書作成	Microsoft Wordを用いて、様々な機能を使いながら文書作成を行う。				タイピングの練習		
	9	Wordによるレポート作成	文献情報をインターネットで調べ、Microsoft Wordの機能を用いてレポートを作成する。				Wordによる レポート作成		
	10	Excelの基本操作	Microsoft Excelのおもな機能を確認し、基本的な操作を行う。				タイピングの練習		
	11	Excelによる図表の作成	Microsoft Wordを用いて、様々な機能を使いながら図表の作成を行う。				タイピングの練習		
	12	PowerPointの基本操作	Microsoft PowerPointのおもな機能を確認し、基本的な操作を行う。				タイピングの練習		
	13	PowerPointによる資料作成	Microsoft PowerPointを用いて、様々な機能を使いながらプレゼンテーション資料の作成を行う。				プレゼンテーション 資料の準備		
	14	PowerPointによるプレゼンテーション作成	Microsoft PowerPointを用いて、プレゼンテーション資料を完成させ、発表の準備をする。				プレゼンテーション 資料の準備		
	15	プレゼンテーションの発表	Microsoft PowerPointで作成したプレゼンテーション資料を発表し、様々な作成例を学び合う。				プレゼンテーション 資料の準備		
	16	定期試験	選択式筆記試験、タイピングを含む課題作成				全体の復習		
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ					
1	テキストや資料スライドを用います。パソコンを操作して実体験を重ねます。課題は、アプリケーションごとに、授業回の成果物を提出します。	「情報リテラシー入門編 Windows11/Office2021 対応」(FOM 出版)	なし	パソコンの基本知識・スキルを身につけて、学習や就職に活かしましょう。					
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件		
評価項目	配分(%)	評価基準				木曜日 5 時限	なし		
定期試験	50	筆記および課題作成試験							
課題提出	30	提出された課題の内容				受講前に学習すること			
受講態度	20	積極的な授業参加							
						受講前の学習は必要ありませんが、データ保存用の USB メモリを用意してください。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
5	暮らしの中の数学	2	30	選択	講義	1年	後期	伊東 和広	
実務経験と授業科目との関連性									
講義目的		数学の様々な分野への応用を理解し、生活の中でそれを活用できるようにする。							
到達目標		身の回りにある数学に気付き、数学的手法や思考法を活用していくことができる。そういう姿勢及び力を養うことができる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	数の世界と計算	・物の大きさを実感する ・計算法則を理解し計算の基礎を身につける			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	2	算数で基礎固め	・割合, 金額, 速さ, 濃度などの計算ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	3	ものの集まり	・集合の考え方がわかる ・包除原理を使った計算ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	4	数量を扱う	・数量を文字式で表す ・方程式の解法の確認			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	5	方程式の利用	・方程式を用いた数量の処理ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	6	スマートに数える	・樹形図を用いて数えられる ・順列, 組合せの計算ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	7	身近な確率	・確率の考え方がわかる ・確率の計算ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	8	確率で予想する	・いろいろな確率の計算ができる ・確率を利用する			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	9	平均点の嘘	・平均点などの統計的數量の計算ができる ・数値に惑わされない統計の見方ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	10	データをグラフで表現する	・データをグラフで表現できる ・データを比較できる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	11	論理的思考の基礎	・命題の真偽の判定ができる ・命題を扱える			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	12	論理的に思考する	・身近な事柄を論理的に捉えられる ・いろいろな証明方法を理解する			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	13	ピタゴラスの定理	・定理の簡単な利用ができる ・平面図形, 空間図形の求積ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	14	図形を扱う	・図形の様々な扱い方ができる			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
	15	整数の話	・n進数を扱える ・素数にふれ, コンピュータへの応用を知る			・講義に向けての準備 ・課題等を通して復習			
16	定期試験	・筆記試験			扱ってきた内容, 問題の復習				
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
1	・公務員試験問題やSPI問題なども扱いながら講義を行う。 ・講義時間内の問題への取り組みも予定。 ・レポートも課す。		なし レジュメを作成する		公務員試験・SPI問題集 (授業時に提示)		数学には「根性」も必要です。その先に数学のおもしろさが見えてきます。一緒に頑張りましょう。		
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準			授業終了後		なし	
定期試験		45	筆記試験						
レポート(10回程度)		30	内容			受講前に学習すること			
講義時間内の問題への取り組み		20	内容及び積極性						
受講態度		5	意欲			これまでの数学の復習			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
6	キャリア形成 I	1	15	必修	講義	1年	前期	齋藤 博紀	
実務経験と授業科目との関連性									
講義目的		大学での学びに必要な基礎を習得し、実習や社会に出ていくための基礎的なマナーを身につける。また、資格を活かしたキャリアについての知識を深める。							
到達目標		1) 学習のための基礎と社会人になるためのマナーを理解し、実行できる。 2) 保育の資格を活かした仕事について説明できる。							
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション	授業内容・大学での決まりについて確認し、学生生活の基礎を学ぶ。			シラバスを読む。			
	2	基本マナー	自己紹介・挨拶に関する基本マナーを理解する。						
	3	学修の基礎力を高める①	タイム・マネジメントとノートのとり方について学ぶ。						
	4	学修の基礎力を高める②	リーディングと情報収集の方法について学ぶ。						
	5	レポートの書き方	原稿用紙の使い方、レポートの体裁を確認し、レポート提出の基本事項を理解する。			事前学修は、前回の授業内容を復習する。 事後学修は、指示された課題に取り組む。			
	6	話し言葉	書き言葉と話し言葉の違いを確認し、社会人としての基礎を身につける。						
	7	手紙の書き方	ハガキや便箋の使い方、手紙・封筒の書き方・使用方法を理解する。						
	8	資格の活かし方	保育に関わる仕事の多様性を学び、自身のキャリアを考える。						
	9	定期試験	筆記試験（選択式・記述式）			これまでの授業内容を復習する。			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
1	テキストと配布資料をもとに講義や予習・復習を行います。テーマに応じて体験学習に取り組みます。		長島和代編「改訂2版 これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉」(わかば社)		なし		学生・社会人として必要な知識・技術を積極的に身につけましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			月曜日3時限		なし	
定期試験		70	筆記試験			受講前に学習すること			
課題提出		30	定期的な課題提出						
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
7	保育原理	2	30	必修	講義	1年	前期	生田 恵津子
実務経験と授業科目との関連性		保育現場経験を踏まえ、保育の意義、歴史の変遷、現状と課題、保育者の役割について講義を行う。						
講義目的		1、保育の意義や思想、歴史の基本について理解する 2、保育の現状や保育政策について理解し、考察する。 3、保育所保育指針の基本について理解する。						
到達目標		1、保育の歴史や制度、保育思想などを理解し、保育の現状と課題について考えることができる。 2、「保育所保育指針」における「保育の基本」について理解し、子どもを理解するための基礎的な知識を習得し、説明することができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	保育を学ぶ意味について理解する			シラバスを読んでおく		
	2	保育の歴史	保育の誕生から、今日までを学ぶ			教科書の該当部分を読んでおく		
	3	法的に規定される保育	学校教育法・児童福祉法など、子どもに関わる法令を学ぶ			子どもに関わる法令を調べてくる		
	4	子ども理解①	子ども理解とは何かを知る			配布資料を読んでおく		
	5	子ども理解②	子ども理解から始まるあそびの援助を学ぶ			配布資料を読んでおく		
	6	子ども理解③	事例から子ども理解の方法を学ぶ			配布資料を読んでおく		
	7	保育所保育指針①	保育所保育に関する基本原則を理解する			今回の授業をまとめる		
	8	保育所保育指針②	養護と教育の関係について理解する			今回の授業をまとめる		
	9	保育所保育指針③	保育の計画について知る			今回の授業をまとめる		
	10	保育所保育指針④	乳児保育のねらい及び内容を理解する			今回の授業をまとめる		
	11	保育所保育指針⑤	1歳以上3歳未満児の保育のねらい及び内容を理解する			今回の授業をまとめる		
	12	保育所保育指針⑥	3歳以上児の保育のねらい及び内容を理解する			今回の授業をまとめる		
	13	保育所保育指針⑦	子育て支援について理解する			今回の授業をまとめる		
	14	指導計画の実際①	主活動の指導計画の立て方を理解する			次回に向けて事案を立てる		
	15	指導計画の実際②	指導計画に基づいて保育を展開することを学ぶ			ここまでの授業をまとめておく		
16	定期試験	筆記試験			これまでの学習内容を復習して臨む			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	授業の形式は講義であるが、主題によってグループでの取り組みも行う。		岡田耕一編著「保育原理 子どもの保育の基本理論の理解」(萌文書林)		なし		保育の根幹を学ぶ科目です。楽しみながら、しっかり学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
定期試験		60	筆記試験		受講前に学習すること		なし	
課題提出		40	課題の提出状況と内容					

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
8	教育原理	2	30	必修	講義	1年	前期	黒田 和子	
実務経験と授業科目との関連性		学校現場経験を踏まえ、教育の意義、歴史的変遷、教育制度、小学校及び地域との連携について講義を行う。							
講義目的		教育の意義や目的、教育の思想や歴史的変遷、教育制度や行政の仕組み、国内外の教育制度、教育の現状と課題等、教育についての基礎的事項を理解する。							
到達目標		1) 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性、乳幼児期の教育の特性を理解できる。 2) 教育の思想と歴史的変遷、教育法規や行政の基礎と国内外の教育制度を理解できる。 3) 教育の実践と生涯学習社会の教育の現場と課題を理解できる。							
教育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	教育の意義	教育の意義について学ぶ（授業のオリエンテーションもあわせて行う）			事前にシラバスを読んでおく			
	2	教育の目的	教育の目的について社会的背景との関連から学ぶ			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	3	教育と児童福祉のつながり	教育と福祉の関係について学ぶ			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	4	人間形成と家庭・地域・社会	家庭や地域・社会との連携を通じた教育について学ぶ			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	5	教育制度の基礎	教育制度を支える教育行政の理念と仕組み			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	6	諸外国の教育思想	代表的な教育思想家について（学校及び家庭教育と子どもとの関係を中心に）学ぶ			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	7	日本の教育思想と歴史	日本の代表的な幼児教育思想家について学ぶ			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	8	近代教育成立の歴史	諸外国の教育事情と教育改革について知る			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	9	子ども観と教育観の変遷	「子ども観、教育観」の誕生とその流れについて学ぶ			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	10	教育制度を支える教育行政の理念と仕組み	教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを諸法令等から理解する			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	11	保育・教育実践の基礎理論	教育実践について、内容と方法、計画、評価について知り、教育がどのようなしくみで実践されているのかを学ぶ			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	12	教育実践の多様な取り組み	多様な教育実践について知り、これからの教育に必要なことを考える			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	13	生涯学習社会と教育	社会教育の発展と生涯教育による教育観の転換について学ぶ			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	14	現代の教育課題	多様性（Diversity）を受け入れる教育について学ぶ			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
	15	学校（幼稚園）における地域との連携と協働	地域に開かれた幼稚園について講義した後、グループ毎で主題に関する課題に取り組む			前回の授業内容を復習し、次回の主題を確認する			
16	定期試験	筆記試験			これまで学習したことを復習する				
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	授業の形式は講義であるが、主題に応じてグループで取り組む課題も実施する。		「シリーズ知のゆりかご」いまがわかる教育原理 西本望編（みらい）		授業時に提示する		教育・保育の基礎的事項を学びます。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分（%）		評価基準				なし	
定期試験		70		筆記試験の得点					
課題提出		30		課題提出の有無と成果					
						受講前に学習すること			
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
9	子ども家庭福祉	2	30	選択 (保必)	講義	1年	後期	田岡 紀美子	
実務経験と授業科目との関連性									
講義目的		子どもおよびその家庭を取り巻く環境や問題について理解し、保育者としてどのような視点や方法をもって支援すべきかについて理解する。							
到達目標		1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義・理念等について説明することができる。 2. 子ども家庭福祉と児童の人権等について討議することができる。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について説明することができる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション	子ども家庭福祉とは何か、子ども家庭福祉を学ぶ目的について理解する。			なし			
	2	現代社会と子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く環境の変化や現代社会の流れについて理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと			
	3	子どもの人権（子どもの権利条約）	子どもの権利の動向と、子どもの権利条約について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと			
	4	子ども家庭福祉の成立と展開	諸外国の子ども家庭福祉の成立と日本の子ども家庭福祉の歩みについて理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと			
	5	子ども家庭福祉の法体系、行財政、機関・施設	子ども家庭福祉の法体系や機関・施設等について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと			
	6	子育て支援・次世代育成支援と保育施策	子育て支援制度や関連する法律等について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと			
	7	母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策	母子保健施策と、ひとり親家庭施策について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと			
	8	子ども虐待とDV問題の防止施策	子ども虐待やDV現状と予防施策について理解する。			事例に関する資料を読む			
	9	子ども家庭福祉に関する事例検討（事例提供）①	子ども家庭福祉に関する事例を提供し、その課題や対応について検討する。			事例に関する資料を読む			
	10	子ども家庭福祉に関する事例検討（事例提供）②	子ども家庭福祉に関する事例を提供し、その課題や対応について検討する。			事例に関する資料を読む			
	11	子ども家庭福祉に関する事例検討（事例提供）③	子ども家庭福祉に関する事例を提供し、その課題や対応について検討する。			教科書の該当頁を読み込むこと			
	12	障がいがある子どもへの福祉施策	障がいとはなにか、障がい児・者に関する福祉施策について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと			
	13	心理治療を必要性や非行問題を抱える子どもへの支援	心理治療や非行問題を抱えた子どもへの支援について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと			
	14	子ども家庭福祉の専門職との連携	関係機関や専門職との連携について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと			
	15	子ども家庭福祉の動向と展望／まとめ	これからの子ども家庭福祉の動向についてまとめる。			配布資料を読む			
16	定期試験	筆記試験			これまでの復習				
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
4	テキスト・配布資料を基に、講義形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討、グループワークも取り入れていく。		「新基本保育シリーズ③ 子ども家庭福祉第2版」公益財団法人児童育成協会監修（中央法規出版）		なし		子どもを取り巻く社会問題や施策について学びます。		
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準					なし	
定期試験		60	筆記試験						
小テスト		20	用語の理解						
グループワーク		20	課題の達成度					受講前に学習すること	
								なし	

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
10	社会福祉	2	30	選択 (保必)	講義	1年	前期	田岡 紀美子
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		社会における様々な現象を把握し、社会福祉の対象や視点について学びながら、社会福祉の理念と役割について理解する。						
到達目標		<small>1. 現代社会における社会福祉の理念や概念について論じることができる。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について特徴をふまえて分類することができる。 3. 障がい者や高齢者の福祉、地域福祉について説明できる。 4. 具体的な事例検討を通して社会福祉の課題について討議できる。</small>						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション	社会福祉とは何か、保育と社会福祉の関係性について理解する。					
	2	社会福祉の意味と考え方	社会福祉の考え方と役割について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	3	社会福祉の歴史	現代社会福祉への道筋について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	4	社会福祉を取り巻く環境	少子高齢化や貧困問題について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	5	社会福祉の行財政について	日本の社会保障制度の理解			教科書の該当頁を読み込むこと		
	6	社会福祉専門職	社会福祉専門職とその支援対象者について			教科書の該当頁を読み込むこと		
	7	社会福祉援助技術	SWの技術について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	8	社会福祉援助技術の活用	事例をもとにSWの活用方法について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	9	事例検討①(公的扶助)	社会福祉に関連する事例について説明し課題を明らかにした後、グループで検討する。			事例に関する資料を読み込むこと		
	10	事例検討②(低所得者対策)	社会福祉に関連する事例について説明し課題を明らかにした後、グループで検討する。			事例に関する資料を読み込むこと		
	11	障がいのある人の福祉	障がいや障がいのある人の福祉について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	12	高齢者の福祉	高齢者福祉の体系や介護保険制度について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	13	地域福祉	地域福祉の理念と地域福祉の推進について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	14	社会福祉の専門職と倫理	社会福祉に関わる専門職と福祉専門職としての保育士について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	15	権利擁護	利用者の権利擁護とサービスの質について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
16	定期試験	筆記試験						
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
6	テキスト・配布資料を基に、講義形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討、グループワークも取り入れていく。		「現代社会福祉要説」松井圭三・今井廣宗(編集)(ふくろう出版)		なし		保育を通じた社会福祉について広く学びます。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
定期試験		70	筆記試験		受講前に学習すること			
小テスト		20	適切な内容や分量など					
課題提出		10	提出の有無と成果		なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
11	社会的養護 I	2	30	選択 (保必)	講義	1年	前期	田岡 紀美子
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		現代社会における子どもを取り巻く状況を理解し、社会的養護を必要とする子どもを支える制度や実施体系、施設・家庭養護の実際について理解することを目的とする。						
到達目標		1. 社会的養護の意義・理念、制度や実施体系等について説明することができる。 2. 社会的養護を必要としている子どもの権利擁護について論じることができる。 3. 社会的養護における子どもの最善の利益について説明することができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション/社会的養護の現状	社会的養護の現状と課題について理解する。			なし		
	2	社会的養護の理念と概念	社会的養護とは何かを学び、理念や概念について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	3	社会的養護の歴史の変遷	社会的養護の歴史について、諸外国と日本を比較しながら理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	4	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの最善の利益や権利を守るための仕組みについて理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	5	社会的養護の実施体系	社会的養護の制度や実施体系について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	6	社会的養護の領域と概要①	社会的養護の実施機関の一つである乳児院について理解する。			配付資料を読む		
	7	社会的養護の領域と概要②	社会的養護の実施機関の一つである児童養護施設について理解する。			配付資料を読む		
	8	社会的養護の領域と概要③	社会的養護の実施機関である、心理治療施設・児童自立支援施設について理解する。			配付資料を読む		
	9	社会的養護の領域と概要④	自立とは何かを考え、社会的養護からの自立について自立援助ホームを中心に理解する。			配付資料を読む		
	10	社会的養護の領域と概要⑤	社会的養護の実施機関の一つである障がい系の施設について理解する。			配付資料を読む		
	11	家庭養護と施設養護	新しい社会的養育ビジョンを基に、家庭養護の実際について理解をする。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	12	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	被措置児童虐待防止の現状と課題について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	13	社会的養護に関わる専門職	社会的養護の専門職・実施者について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	14	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	社会的養護とソーシャルワークについて理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	15	施設の運営管理の現状と課題/まとめ	施設の運営管理について理解する。			教科書の該当頁を読み込むこと		
	16	定期試験	筆記試験					
DP	学修方法		テキスト	参考書		教員からのメッセージ		
6	テキスト・配布資料を基に、講義形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討、グループワークも取り入れていく。		公益財団法人児童育成協会監修 新・基本保育シリーズ6「社会的養護 I 第2版」(中央法規)	なし		保育士の関わりを通じた社会的養護の内容や現状について学びます。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			木曜日 5時限	なし	
定期試験		70	筆記試験					
提出物		30	適切な内容や分量など			受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
12	保育者論	2	30	必修	講義	1年	後期	黒田 和子	
実務経験と授業科目との関連性	学校現場経験を踏まえ、保育者の役割や専門性、連携・協働、キャリア形成について講義を行う。								
講義目的	保育者の役割と倫理、制度的位置づけ、保育者の専門性や資質・能力、保育者の連携・協働、保育者のキャリア形成について理解する。								
到達目標	1) 保育者の役割と倫理、保育士の制度的位置づけ、保育士の専門性として保育士の資質・能力と養護及び教育の一体的展開を理解できる。 2) 保育者の連携・協働及び資質向上のためのキャリア形成について理解できる。								
教育内容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修		担当教員	
	1 保育者の存在意義	「保育者」のイメージ「保育者になる」ということについて考える				事前にシラバスを読んでおく			
	2 保育者の仕事と役割	保育者という職業の特徴について考える				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	3 保育者の制度的位置づけ	法的根拠を知り、保育者の役割や職務内容・義務などを理解する				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	4 保育者になるための学び	教育を受ける者から実践する者への転換について理解する				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	5 保育者に求められる資質とは	保育者に期待されている役割について学ぶ				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	6 職場で学びあう専門家として	保育における職員間の連携・協働について学ぶ				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	7 保育者の資質向上とキャリア	保育者の専門性について学ぶ				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	8 子どもの育ちの危機と子育て支援①	保育者の子ども理解と保育者が活動を提案する事由等について考える				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	9 子どもの育ちの危機と子育て支援②	「子育て支援」と保育者の役割について学ぶ				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	10 現代社会の変化と保育者の仕事や課題	保護者や家庭、地域社会との連携・協働・分担等について理解する				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	11 日本の保育者のあゆみ	日本の保育が形成された経緯を理解する				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	12 資料にみる保育者の姿	社会の変化と保育者の役割について学ぶ				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	13 諸外国の保育者	諸外国の保育者に関する議論の動向について学ぶ				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	14 保育者になる人へのメッセージ	諸外国の保育者に関する議論の動向について学ぶ				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
	15 保育者のキャリア形成(1)	これからの保育者の専門職化について考える				前回の授業内容を復習し、次回の主題について教科書(該当カ所)を読む			
16 定期試験	筆記試験を行う				これまで学習したことを復習する				
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	授業の形式は講義であるが、主題に応じてグループで取り組む課題も実施する。		新時代の保育双書 今に生きる保育者論 秋田喜代美編(みらい)		授業時に提示する		保育者として知っておいてほしい基礎的な事項を学びます。		
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準				なし		
定期試験		60	筆記試験の得点						
課題提出		40	課題提出の有無と成果				受講前に学習すること		
							なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
13	保育・教育の心理学	2	30	必修	講義	1年	前期	田中 秀明
実務経験と授業科目との関連性	児童発達支援センター、放課後等デイサービス、認定こども園等での心理臨床活動経験を踏まえ、保育・幼児教育の基礎的事項、発達に応じた保育援助について講義を行う。							
講義目的	保育・幼児教育における発達理解の意義、発達に関する基礎的理論、各発達段階の特徴について学ぶ。さらに学習に関する基礎的理論を理解し、子どもの主体的学びを支える保育を考える。							
到達目標	1. 子どもの心身の発達および学習の過程について理解している。 2. 各発達段階における心理的特性、養護と教育の一体性やこどもの主体的学びを支える指導について理解している。							
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	1 保育・幼児教育における発達理解の意義	保育・幼児教育における心理学とは何か。保育者が発達を理解する意義を理解する。				テキストの該当部分をよむ。		
	2 発達を規定する要因	遺伝と環境など発達に影響を及ぼす要因について学ぶ。				テキストの該当部分をよむ。		
	3 発達観・子ども観と保育・教育観	発達とは何か。子どもをどう捉えるか。発達観・子ども観と保育観との関わりを学ぶ。				テキストの該当部分をよむ。		
	4 子どもの身体・運動機能の発達	身体の発育と運動能力の発達について理解し援助を考える。				テキストの該当部分をよむ。		
	5 子どもの言語・コミュニケーションの発達	子どもの言葉の発達を理解し、コミュニケーション力の育成について学ぶ。				テキストの該当部分をよむ。		
	6 子どもの認知能力の発達	子どもの知覚、知的能力の発達を理解し、あそびとイメージの世界の重要性を考える。				テキストの該当部分をよむ。		
	7 子どもの社会性の発達	人への志向性と他者との関わりについて理解する。				テキストの該当部分をよむ。		
	8 子どもの学習過程	学習に関する基本的理論を学び保育援助に生かす。				テキストの該当部分をよむ。		
	9 子どもの主体的な学びと動機づけ	内発的動機づけに基く学びを理解し、応答的環境の構成を考える。				テキストの該当部分をよむ。		
	10 保育実践と学びの評価	保育における評価の意義とPDCAサイクルについて学ぶ。				テキストの該当部分をよむ。		
	11 生涯発達と発達援助(1)胎児期・新生児期	胎児・新生児の発達の特徴を理解し、発達に応じた保育援助について学ぶ。				テキストの該当部分をよむ。		
	12 生涯発達と発達援助(2)乳児期	乳児の発達の特徴を理解し、発達に応じた保育援助について学ぶ。				テキストの該当部分をよむ。		
	13 生涯発達と発達援助(3)幼児期	幼児の発達の特徴を理解し、発達に応じた保育援助について学ぶ。				テキストの該当部分をよむ。		
	14 生涯発達と発達援助(4)学童期	学童期の子どもの発達の特徴を理解し、援助について学ぶ。				テキストの該当部分をよむ。		
	15 生涯発達と発達援助(5)青年期・成人期・老年期	生涯発達の視点から青年期以降の発達の特徴を理解する。				テキストの該当部分をよむ。		
	16 定期試験	筆記試験				指示された出題範囲について準備する。		
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
2	1. テキスト・プリント教材に基づく講義 2. 授業中の課題についてレポートの提出	シリーズ知のゆりかご「保育の心理学」青木紀久代編(みらい)	なし	1年生後期から始まる実習に向けて子どもの発達についてしっかりと学びましょう。				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準				なし		
定期試験	60	筆記試験の記述内容						
レポート	40	指示された課題へのとりくみと内容				受講前に学習すること		
						母子手帳、家族の話などをもとに自分の発達について振り返ってみる。		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
14	子どもの理解と援助	2	30	必修	演習	1年	後期	田中 秀明	
実務経験と授業科目との関連性		児童発達支援センター、放課後等デイサービス、認定こども園等での心理臨床活動経験を踏まえ、子ども理解の意義と基本的態度およびその方法について講義と演習を行う。							
講義目的		幼児理解の意義と理解を深めるための基本姿勢について学ぶ。さらに、観察・検査などによるアセスメントや記録、幼児のつまずきについて具体的に事例を通して理解する。							
到達目標		1) 子ども理解に関する知識と基本的態度を身につける。 2) 子どもを理解する具体的な方法を理解し、子どものつまずきに対応する基本的な力を身につける。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	子ども理解の目的と意義	保育者として子どもの内面を理解することの重要性・意義を学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	2	子どもの発達や学びの理解	子どもひとりひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を理解し、養護と教育の一体的展開について学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	3	遊びを通した子ども理解	子どもの生活や遊びの場面での事例を通して子ども理解に基づく保育者の援助を考える。			テキストの該当部分をよむ。			
	4	子ども理解を深める保育者の基本姿勢	子どもに対する共感的理解を学び、保育者に求められるカウンセリングマインドを理解する。			テキストの該当部分をよむ。			
	5	幼保小をつなぐ子ども理解	保育・幼児教育と学校教育との違いを理解し幼保小の連携の重要性と具体的試みについて学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	6	子どもの理解の方法 (1)観察	子どもを理解する方法として観察について学びその意義・留意点を理解する。			テキストの該当部分をよむ。			
	7	子どもの理解の方法 (2)発達検査	子ども理解の一方法として発達検査について学び、その意義・概要を理解する。			テキストの該当部分をよむ。			
	8	子どもの理解の方法 (3)知能検査	子ども理解の一方法として知能検査について学び、その意義・概要を理解する。			テキストの該当部分をよむ。			
	9	記録の意義と方法	記録を通して子どもを理解することの意義を学び、具体的方法について理解する。			テキストの該当部分をよむ。			
	10	クラス集団の理解と援助	個と集団の関係を捉える意義や方法を理解しクラス活動の事例を通して保育者の援助について考える。			テキストの該当部分をよむ。			
	11	子どもの発達のつまずきとその背景	幼児期の子どもを中心に、発達のつまずきとその原因・背景について学ぶ。			テキストの該当部分をよむ。			
	12	子どもの学びの過程で生じるつまずき	生活と遊びを通した学びの過程で生じるつまずきについて事例を通して理解する。			テキストの該当部分をよむ。			
	13	子どものつまずきとその対応	子どもの葛藤やつまずきについて保育者の対応を事例をもとに考える。			テキストの該当部分をよむ。			
	14	保護者理解と連携	保護者の心情を理解する方法を学び、連携の重要性、具体的対応について理解する。			テキストの該当部分をよむ。			
	15	園内研修を通した子ども理解	保育者間の情報共有の必要性和、保育者の学び合いの意義について理解する。			テキストの該当部分をよむ。			
16	/								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	1. グループごとの学習に基く発表 2. 授業中の課題についてレポート作成		塚本美知子編著 「子ども理解と保育実践」(萌文書林)		なし		「子どもを理解する」とは どういうことなのか、しつ かりと考えてみましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準					なし	
レポート		60	指示された課題へのとりくみと内容						
授業時の発表		40	発表の内容・方法・参加度						
						受講前に学習すること			
						前期履修の「保育・教育の心理学」について 復習しておく。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
15	教育課程の編成と評価	2	30	必修	講義	1年	前期	黒田 和子
実務経験と授業科目との関連性		学校現場経験を踏まえ、保育の計画と評価、保育所保育指針、指導計画の作成について講義を行う。						
講義目的		保育の計画と評価、指針等における保育の目標と計画の基本的な考え方、全体的な計画と指導計画の関係性や作成について理解する。保育士及び保育所の自己評価等について理解する。						
到達目標		1) 保育の計画と評価を理解できる。 2) 保育所保育指針等における保育の目標と計画の基本的な考え方、全体的な計画と指導計画の関係性及び作成について理解できる。 3) 保育士及び保育所の自己評価と保育所児童保育要録等について理解できる。						
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	学校教育における教育課程	「カリキュラム」や教育課程について学ぶ。			事前にシラバスを 読んでおく		
	2	保育の基本と計画の考え方	保育における計画や教育課程の意義について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	3	カリキュラム構想	カリキュラム構造と保育改善について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	4	幼稚園教育要領の改訂の変遷	幼稚園教育要領の改訂の変遷とその背景について 学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	5	保育所保育指針の改訂の変遷	保育所保育指針の改訂の変遷とその背景について 学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	6	教育過程・全体的な計画の 編成・作成	教育過程・全体的な計画の必要性と構成要素につ いて学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	7	指導計画とは(長期的・短 期的)	指導計画の必要性、生活の連続性について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	8	指導計画の作成で配慮する ことポイント	指導計画を作成する際に気をつけることについて 学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	9	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの意義と実際につ いて学ぶ			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	10	計画の実際① 保育所 (0～3歳)	長期の指導計画と短期の指導計画の基礎的事項に ついて学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	11	計画の実際② 幼稚園 (3～6歳)	長期の指導計画と短期の指導計画の実際(活用) について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	12	計画の実際③ 認定こども 園	さまざまな子どものいることの長所を生かす指導 計画の考え方について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	13	計画の実際④ 異年齢児保 育	異年齢児保育の内容と意義について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	14	幼児教育と小学校教育との 接続	カリキュラムの観点から幼児教育と小学校教育と の円滑な接続について学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	15	世界の乳幼児教育改革	カリキュラムの観点から諸外国の乳幼児教育につ いて学ぶ。			前回の授業内容を復習し、 次回の主題について教科書 (該当カ所)を読む		
	16	定期試験	筆記試験			これまで学習した ことを復習する		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	授業の形式は講義であるが、主題 に応じてグループで課題に取り組 む機会を設ける。		シリーズ知のゆりか ご「教育・保育カリ キュラム論」田中亨 胤 三宅茂夫編(み らい)		汐見稔幸他監修「(平成30年 施行)保育所保育指針 幼稚園 教育要領 幼保連携型認定こど も園教育・保育要領 解説とポ イント」(ミネルヴァ書房)		教育・保育課程の基礎を学 びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準				なし	
定期試験		60	筆記試験の得点					
課題提出		40	課題提出の有無と成果					
					受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
16	保育内容 総論	1	15	必修	演習	1年	後期	生田 恵津子	
実務経験と授業科目との関連性		認可保育園保育士の経験を踏まえ、保育の意義、歴史の変遷、現状と課題、保育者の役割について講義を行う。							
講義目的		保育の歴史の変遷や、保育の内容、保育所の機能などを学び、保育は養護と教育が一体的に展開されるものであることを、事例や保育指針の理解を通して学ぶ。							
到達目標		1) 保育の内容、保育所の機能、保育の現代的課題を説明することができる。 2) 保育所保育指針・事例検討を通して、保育の全体的構造を説明できる。							
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	幼児教育・保育の基本	保育内容の歴史の変遷を知り、指針・要領と教育基本法・児童福祉法の関連を学ぶ			シラバスを読んでくる事後ノートをまとめる			
	2	保育内容とは	養護と教育が一体的に行われる保育の全体像を事例から学ぶ			ノートをまとめる			
	3	子ども理解	指針等に述べられている「子どもの心情・意欲・態度」とは何であるか事例から学ぶ			ノートをまとめる			
	4	子どもの育ちと保育内容	幼稚園の子ども達の姿を追った視覚教材を使ってのビデオカンファレンスを通して保育を学ぶ			シーン1～5のまとめ			
	5	保育内容の展開	幼稚園の子ども達の姿を追った視覚教材を使ってのビデオカンファレンスを通して保育を学ぶ			シーン6～10のまとめ			
	6	主体的な遊びで育つ子ども	幼稚園の子ども達の姿を追った視覚教材を使ってのビデオカンファレンスを通して保育を学ぶ			シーン11～15のまとめ			
	7	子どもが応え、子どもに応える保育とは	幼稚園の子ども達の姿を追った視覚教材を使ってのビデオカンファレンスを通して保育を学ぶ			配布プリントを読んで臨む			
	8	これからの保育と課題	多様化する保育ニーズ、特別な支援を必要とする子どもや家庭、多文化共生時代の保育等、保育の今日的課題に関心を持つ			ノートをまとめる			
9	定期試験	筆記試験							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	講義形式と演習形式、グループワーク		入江礼子他編著「改訂保育内容総論」(建帛社)		なし		多くの事例に触れ、保育という営みに関心を持ち、子どもを理解する力をつけて欲しいと思っています。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)		評価基準		木曜日5時限		なし	
グループ参加		30		積極的発言		受講前に学習すること			
課題提出				記述内容 提出期限					
定期試験		50		筆記試験		なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
17	保育内容の指導法 I (健康・表現)	2	30	必修	演習	1年	後期	山田真治・白金俊二 米窪洋介
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、幼児の健康に関する支援方法と理解について講義と演習を行う。(白金) 中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。(山田)						
講義目的		幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」、「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。						
到達目標		幼児の心情、認識思考及び動き等を視野に入れた保育構想が説明できる。指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。模擬保育とその振り返りを通して保育を改善することができる。領域「健康」、「表現」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。						
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	1	幼児の基本的な生活習慣	基本的な生活習慣の形成と環境構成について学ぶ			シラバスを読んでくる	白金	
	2	健康管理と安全能力	健康管理と安全能力を育む指導について理解する			指示された事前課題に取り組む	白金	
	3	健康管理と安全能力	生活安全や災害安全についての指導法について学ぶ			指示された事前課題に取り組む	白金	
	4	指導案の作成	指導案作成の手順等について学び指導法を理解する 指導案の提出			運動遊びを考えてくる	白金	
	5	食について	幼児の食への興味関心を高めるための指導法について理解する レポートの提出			指示された事前課題に取り組む	白金	
	6	幼児の発達の理解	表現活動における資質、能力について理解する			発達段階の復習をしておく	山田	
	7	幼児の表現評価	小学校教科との接続性について学習成果の確認課題提出			評価基準の整理をする	山田	
	8	表現活動の情報機器	音楽表現における情報機器の活用法			情報機器の利便性について考えてくる	山田	
	9	指導案の作成	音楽遊びの模擬保育とその振り返り指導案の提出			音楽遊びを考えてくる	山田	
	10	幼児の心情、思考の理解	ポートフォリオ等で幼児の心情や思考についての理解を深め保育構想の向上に取り組む			幼児の表現活動の傾向を整理する	山田	
	11	幼児の発達と造形表現	幼児の発達や学びの過程を理解し、造形表現活動において育みたい資質・能力について考える			次の主題を確認しておく	米窪	
	12	評価と学びの連続性	幼児の造形表現における評価の考え方について理解する ポートフォリオの提出			次の主題を確認しておく	米窪	
	13	遊びと造形表現	幼児の造形活動に用いられる様々な素材に触れ、あそびへの展開の可能性を理解する			次の主題を確認しておく	米窪	
	14	造形表現活動の構想	表現活動における教材の活用法を体験的に理解する 教材研究の提出			次の主題を確認しておく	米窪	
	15	指導案の作成	造形あそびの指導案を作成し、指導法を理解する 指導案の提出			次の主題を確認しておく	米窪	
16								
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
5	3名の担当教員で授業展開をしていきます。研究データ等を紹介しながら、自らが指導案を作成、模擬授業を行い自分なりの指導法を見いだしていきます。	「保育内容の指導法 健康」白金俊二、「表現の指導法 音楽・造形」山田真治、米窪洋介(学術文芸出版)	「幼児期運動指針」、新時代の保育双書「保育内容 健康(第2版)」編集代表春日晃章(みらい)	予習、復習を必ず行って下さい。				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること	なし		
授業の課題	20	記述内容			受講前に学習すること			
指導案作成	40	提出物の内容						
講義内のレポート	40	記述内容			前期で学んだ健康・表現の領域のねらいと内容を復習しておいて下さい。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
18	保育内容の指導法Ⅱ (環境・人間関係)	2	30	必修	演習	1年	後期	山藤宏子
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		領域「人間関係」及び「環境」のねらい及び内容を踏まえて、乳幼児の興味・関心を理解し、資質・能力の長期的な発達について総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を具体的に体験し、習得する。						
到達目標		1. 幼児期における教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」「環境」の意義を理解できる。 2. 子どもと環境(人的・物的)との関わりについて理解し、理論的・実践的に活用できる。 3. 保育者の環境(人的・物的)への配慮や援助のあり方について理解し、保育を構想できる。						
教育内容		本日の主題	授業概要			事前・事後学修	担当教員	
	1	ガイダンス	本講義の意義と進め方			なし		
	2	保育教材を用いた自己表現1	自己表現に適した保育教材の企画			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習		
	3	保育教材を用いた自己表現2	自己表現に適した保育教材の製作					
	4	保育教材を用いた自己表現3	作品を使用しての模擬保育					
	5	児童文化財としての絵本	絵本を媒体とした双方向のやり取りを理解する					
	6	絵本を使用しての模擬保育	読み聞かせの技術を獲得する					
	7	乳児とのコミュニケーション	ふれあい遊びを通して、乳児とのやり取りを学ぶ					
	8	集団のコミュニケーション	身体を使った集団遊びから集団の楽しさを理解する					
	9	子どもの権利条約1	子どもの権利条約について理解する					
	10	子どもの権利条約2	事例を通して、子どもの権利の扱いを学ぶ					
	11	特別な配慮が必要な子ども	子どもや家庭が多様化する現代を理解する					
	12	子育てへの寄り添い方	アロケアの重要性について理解する					
	13	保育展開の実際1	人間関係に着目した指導案を作成する 3歳児					
	14	保育展開の実際2	人間関係に着目した指導案を作成する 4歳児					
	15	保育展開の実際3	人間関係に着目した指導案を作成する 5歳児					
	16	定期試験	筆記試験				これまでの復習	
DP	学修方法		テキスト	参考書			教員からのメッセージ	
2	テキスト・配布資料による講義、グループワーク		保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」第2版 咲間まり子(みらい)、川名はつ子「はじめまして、子どもの権利条約ワークブック」(東海教育研究所)	なし		保育環境(物的環境・人的)について深く学びましょう。		
成績評価方法					オフィスアワー	履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限	なし		
定期試験		20	情報の質と量、考察の論理性					
グループワーク・発表への貢献度		20	発言等の参加度					
授業への取り組み		60	授業・演習への参加状況		受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
19	子どもと音楽表現	1	15	必修	演習	1年	前期	山田 真治
実務経験と授業科目との関連性		中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。						
講義目的		幼児の表現や姿や発達を理解する。音楽表現の基礎的な技能、知識を学ぶことにより、幼児の音楽表現を支えるための感性を豊かにする。						
到達目標		幼児の音楽表現の姿や発達が説明できる。音楽表現の基礎的な技能、知識を学び、感じる・みる・聴く・楽しむことを通して作り上げたイメージを豊かに表現することができる。また身のまわりのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした音楽表現ができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	領域「表現」のねらい及び内容の理解	乳幼児や遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて理解する。			テキストを読んでおく		
	2	幼児の表現の発達の理解	幼児の素朴な表現、芽生えについて理解する。			発達段階の復習		
	3	豊かな環境と表現の関連性について	身体の諸感覚を通して環境と対話し感受性を豊かにする。表現性の確認テスト。			楽曲のイメージを考えておく		
	4	身のまわりの音・声・楽器による音楽あそび	声や音の面白さに気付く。声や動きなど自ら創り出す音の多様性を生かした表現を行なう。楽器製作作品を提出する。			手作り楽器の素材を準備する		
	5	豊かな表現活動の体験	豊かな歌唱表現を習得。合唱、アンサンブルを通じ重なり合う音の美しさを体験する。			合唱アンサンブルの音取り予習をしてくる		
	6	音・歌遊びを「学び」の視点から捉える	簡易な楽器を用いて、幼児の発達に合わせたリズム遊びの展開を考える。			発達段階の復習		
	7	イメージを音で表現する	心情、情景などを楽器、声、身のまわりの音を使い、協働で表現する。手遊びを考案し提出する。			子どものうたの詩を作ってくる		
	8	総括と発表	ICTを活用し、手作り楽器の演奏をする。			発表の準備をしておく		
9	/							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」の領域「表現」のねらいに沿いながら授業展開を進めていく。創作活動、演奏活動を中心とした体験学習。		「子どもの感性と表現」山田真治（学術文芸出版）「音楽表現の基礎」山田真治（学術文芸出版）		汐見稔幸他監修「〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」（ミネルヴァ書房）		主題項目の内容が違っていても連続性が生じているので必ず復習をして下さい。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			火曜日 5時限		なし
学生自身の学習発表		70	楽器の素材の特性			受講前に学習すること		
授業内の課題		30	手作り楽器の完成度、手遊びの考案性					
					シラバスを読んでおくこと。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
20	子どもと健康	1	15	必修	演習	1年	前期	白金 俊二
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、領域「健康」について、身体の成長に関わる今日的な課題を含めて講義と演習を行う。						
講義目的		心身の健康に関する領域である「健康」について、保育のねらいや内容を明らかにするとともに、乳幼児の心と体の発育・発達の特徴や身体の成長に関わる今日的な問題点などを理解できるようにする						
到達目標		1) 幼児期の健康課題と体の諸機能の発達等を理解する 2) 幼児の安全な生活とけがや病気の予防について理解する 3) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	乳幼児の健康課題	領域健康のねらいや内容を理解し、乳幼児の健康課題について学ぶ			シラバスを読む		
	2	乳幼児の発達の特徴	乳幼児の身体的発達の特徴や生理的機能の発達について学ぶ			事前・事後学修用の資料を読む		
	3	乳幼児の生活習慣の獲得と形成	着脱衣、食事、排泄等の獲得と形成について理解する			事前・事後学修用の資料に取り組む		
	4	安全意識や態度の育成について	幼児の安全に対する意識や態度の育成について学ぶ			事前・事後学修用の資料に取り組む		
	5	幼児期に起こりやすいけがや病気	起こりやすいけがの特徴と応急処置の基礎、病気の予防について学ぶ			事前・事後学修用の資料に取り組む		
	6	幼児期の運動発達の特徴	幼児期運動指針をもとに、幼児期の運動発達の特徴について理解する			事前・事後学修用の資料に取り組む		
	7	運動コントロール能力とは	運動をコントロールする能力について学び、それを育む意義について理解する			事前・事後学修用の資料に取り組む		
	8	子どもにとっての運動の重要性	子どもにとっての遊びとしての運動のあり方について理解する			事前・事後学修用の資料に取り組む		
	9	定期試験	筆記試験			試験に向けて事前学修に取り組む		
DP	学修方法		テキスト	参考書		教員からのメッセージ		
2	主題に応じてグループワークを取り入れながら学修を進める		新時代の保育双書「保育内容健康(第2版)」編集代表春日晃章(みらい)	なし		主体的な学習をし、課題は必ず提出しましょう		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日 3時限	なし	
定期試験		100	選択式・記述式					
						受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
21	子どもと環境	1	15	必修	演習	1年	前期	高橋 典子
実務経験と授業科目との関連性		保育現場経験を踏まえ、領域「環境」のねらいと内容の理解を深めるため、具体的事例を交えながら講義と演習を行う。						
講義目的		領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、保育内容に関する知識及び技術を身につける。特に領域「環境」の指導の基盤になる現代の乳幼児を取り巻く人的・物的・情報環境及び社会の事象との関わりの発達過程について学ぶ。						
到達目標		1. 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達との関係性を理解できる。 2. 幼児期の思考・科学的概念の発達を理解できる。 3. 幼児期の文字や情報等への関心とそれらとの関わりの発達を理解できる。						
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	現代社会の幼児を取り巻く環境(人的・物的)の必要性と課題について理解する			なし		
	2	子どもの育ちと環境	乳幼児の認知的発達と環境との関わりについて理解する					
	3	保育環境の構成 —子どもたちもその担い手—	乳幼児と環境との関わりを捉える視点を理解する					
	4	人的環境	保育者、友だち、さまざまな人とのかかわりに焦点を当てて人的環境について理解する					
	5	物的環境	園における物的環境の性質や特徴を理解したうえで、環境の構成を行う大切さを理解する			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習		
	6	自然環境	乳幼児と自然の事業への関わりについて理解する					
	7	社会的環境	情報や社会の文化・行事への乳幼児の関心を育む環境について理解する					
	8	子どもを守る安全な環境	安全な環境を整え、維持し続けることについて理解する					
	9	定期試験	筆記試験					
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	配布資料による講義、グループワーク。テキスト・配布資料による講義とテーマに応じた体験学習を行う。		新時代の保育双書「保育内容環境(第3版)」秋田喜代美他編(みらい)		授業中に適宜紹介する		子どもを取り巻く環境についての理解を深めましょう	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			木曜日5時限		なし
課題		30	情報の質と量、考察の論理性			受講前に学習すること		
グループワーク・発表への貢献度		20	発言等の参加度					
定期試験		50				なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
22	子どもと人間関係	1	15	必修	演習	1年	後期	山藤 宏子	
実務経験と授業科目との関連性		保育現場経験および、NPO 法人において地域児童と子育て家庭、あるいは震災避難児童（家族）と地域児童（家族）など、子どもを中心にした人をつなぐ活動に携わった経験を踏まえ、授業を展開する。							
講義目的		現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を及ぼしている要因について理解し、保育において保障すべき保育内容に関する知識を学ぶ。特に保育の基盤となる関係発達の視点について知り、他者との関係や集団との関係の中で人とかかわる力が育つ過程を理解する。							
到達目標		1. 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴を理解できる。 2. 幼児期の人間関係の発達（自立心、協同性、道徳性・規範意識等）について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解できる。 3. 幼児期の遊びや人と関わる力の育ちがその後続く人生を支える力となることを理解できる。							
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	ガイダンス	領域「人間関係」について理解する			なし			
	2	胎児期から広がる人間関係	胎児期、新生児期の母子関係を学ぶ						
	3	乳児からのアプローチ	新生児が生命維持のために持つ能動性を知る						
	4	信頼できる人間関係の形成	二項関係から三項関係、愛着の形成を理解する						
	5	遊びから広がる人間関係	幼児期の共同性の育ちについて理解する			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習			
	6	道徳性・規範性の獲得 1	幼児期に育つ道徳性・規範意識の芽生えについて理解する						
	7	道徳性・規範性の獲得 2	事例を通して、道徳性、規範意識を検討する						
	8	道徳性・規範性の獲得 3	子どもの規範意識をテーマとしたグループワーク						
	9	定期試験	筆記試験			これまでの復習			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	テキスト・配布資料による講義、グループワーク		保育実践を学ぶ保育内容「人間関係」第2版 咲間まり子（みらい）		なし		乳幼児期の人間関係を捉える視点について理解を深めましょう		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)		評価基準		木曜日 5 時限		なし	
定期試験		60		情報の質と量、考察の論理性					
グループワーク・発表への貢献度		20		発言等の参加度		受講前に学習すること			
授業への取り組み		20		レポート提出期限、内容の質					
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
23	子どもと身体表現	1	15	必修	演習	1年	前期	山田 真治
実務経験と授業科目との関連性		中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。						
講義目的		幼児の表現や姿や発達を理解する。身体表現の基礎的な技能、知識を学ぶことにより、幼児の身体表現を支えるための感性を豊かにする。						
到達目標		身体表現に必要な幼児の発達が説明できる。身体表現の基礎的な技能、知識を学び身体表現することの楽しさが実感できる。身のまわりのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした身体表現ができる。協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、豊かな身体表現ができる。						
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	領域「表現」のねらい及び内容の理解	領域「表現」のねらい及び内容の理解と位置づけについて理解する。			テキストを読んでおく		
	2	自然との対話	身近な自然やその素材の特性に触れ、感じる、みる、聴く、楽しむことを通してイメージを豊かにする。			身近な素材を意識しておく		
	3	生活との対話	多感覚性に着目して身近な遊びや生活に心が動いたことなどをもとに身体で表現する。			遊びで心が動いたことを思い出す		
	4	模倣による身体表現	身近にあるものを身体で捉え自分なりに身体で表現する。			身体で表現できることを考えておく		
	5	豊かな表現活動の体験	幼児の素朴な表現を見出し子どもの歌に合わせた身体表現をする。			身体で表現しやすい歌を考えておく		
	6	他者との対話	コミュニケーションとしての身体表現と創作劇による身体表現。表現製作の中間評価。			身体で表現しやすい物語を考えておく		
	7	音による創作表現	音のイメージを身体で表現する。リトミックDVD鑑賞を行う。			テキストを読んでおく		
	8	ICTの活用と総括	ICTを活用した音楽表現活動（DVD鑑賞）を考え、学習発表をする。			発表の準備をしておく		
9	/							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	グループワーク形式で学習し、学生自身の学びが可視化できる学習発表を行っていく。		「子どもの感性と表現」山田真治（学術文芸出版）		汐見稔幸他監修「〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」（ミネルヴァ書房）		身体を動かすことが苦手という学生もいると思います。周囲を気にしないで自分自身を表現して下さい。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			火曜日 5 時限		なし
学生自身の学習発表		70	創作表現の完成度			受講前に学習すること		
授業内のレポート		30	計画性、協働表現内容					
					シラバスを読んでおくこと。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
24	乳児保育 I	2	30	選択 (保必)	講義	1年	後期	高橋 典子	
実務経験と授業科目との関連性		公立保育所における保育士・園長としての勤務経験を基に、乳児保育の基礎と乳児保育の実際について講義を行う。							
講義目的		<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の意義と目的を学び、3歳未満児の発達に合わせた保育方法を考えることができる。 ・乳児が生活する様々な場所を知り、課題について考えることができるようになる。 							
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 1) 保育の意義、目的と役割、歴史の変遷及び現状と課題を理解できる。 2) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制を理解できる。 3) 乳児保育における連携・協働（職員間、保護者、地域関係期間）について理解できる。 							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション 乳児保育とは（1）	授業内容を理解する 乳児保育の意義と目的を理解する						
	2	乳児保育とは（2）	保育所保育指針に定められている乳児保育の意味を理解する			教科書及び参考書の該当頁を読み込むこと			
	3	乳児が生活する場（1）	課程・保育園・認定こども園・小規模保育・乳児院・地域型保育事業などを知る			教科書及び参考書の該当頁を読み込むこと			
	4	乳児が生活する場（2）	乳児保育の現状と課題について理解する			教科書及び参考書の該当頁を読み込むこと			
	5	乳児保育のねらいと内容（1）	保育所保育指針に示される乳児保育のねらい「健やかに伸び伸びと育つ」を理解する			教科書及び参考書の該当頁を読み込むこと			
	6	乳児保育のねらいと内容（2）	保育所保育指針に示される乳児保育のねらい「身近な人と気持ちを通じ合う」を理解する			教科書及び参考書の該当頁を読み込むこと			
	7	乳児保育のねらいと内容（3）	保育所保育指針に示される乳児保育のねらい「身近なものに関わり感性が育つ」を理解する			教科書及び参考書の該当頁を読み込むこと			
	8	乳児の発達と保育（1）	0～6ヶ月の発達に応じた関わり方や援助の方法を学ぶ			配布資料を見返してこること			
	9	乳児の発達と保育（2）	7～12ヶ月の発達に応じた関わり方や援助の方法を学ぶ			配布資料を見返してこること			
	10	乳児の発達と保育（3）	13～24ヶ月の発達に応じた関わり方や援助の方法を学ぶ			配布資料を見返してこること			
	11	乳児の発達と保育（4）	25～35ヶ月の発達に応じた関わり方や援助の方法を学ぶ			配布資料を見返してこること			
	12	乳児の発達と保育（5）	手作りおもちゃを通して発達を学ぶ①			発達に応じたおもちゃについて調べてくる			
	13	乳児の発達と保育（6）	手作りおもちゃを通して発達を学ぶ②			発達に応じたおもちゃについて調べてくる			
	14	まとめ 1歳以上3歳未満児の保育（1）	発達マップを通して領域を理解する①			これまで学習したことを復習する			
	15	まとめ 1歳以上3歳未満児の保育（2）	発達マップを通して領域を理解する②			これまで学習したことを復習する			
16	定期試験	筆記試験							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	テキスト・配布資料を基に講義形式で展開する。視覚教材や事例検討も取り入れていく。		阿部和子編著「改訂 乳児保育の基本〈第2版〉」（萌文書林）		汐見幸他監修「〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」（ミネルヴァ書房）		新任保育士は3歳未満児クラスの担任となるケースが多いため、すぐに必要となる知識です。しっかりと学びましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)		評価基準		木曜日5時限		なし	
定期試験		60		筆記試験の得点		受講前に学習すること			
小テスト		20		筆記試験の得点					
課題		20		課題提出の有無と学習効果		なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
25	社会的養護Ⅱ	1	15	選択 (保必)	演習	1年	後期	田岡 紀美子
実務経験と授業科目との関連性		知的障がい者施設、及び身体障がい者施設での勤務経験を活かし、社会福祉施設の事例検討などを通して実践的な学びが深められるような講義を行う。						
講義目的		社会的養護の具体的内容としての施設養護及び家庭養護の実際について理解する。また、社会的養護における相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家族支援についても理解する。						
到達目標		1. 施設養護と家庭養護の比較をしながら、子どもの最善の利益について論じることができる。 2. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に応用できる。 3. 様々な事例検討を通して、子どもの最善の利益について根拠を基にした意見を述べるができる。						
教育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション	社会的養護Ⅱについて、講義の概要と目的などを説明する。			シラバスや配布資料を読む		
	2	社会的養護の子どもと保育士	社会的養護の子どもの理解と保育士の専門性について理解する。			教科書の該当ページを読み込むこと		
	3	社会的養護の内容	社会的養護における、日常生活支援、心理的支援、自立支援について理解する。			教科書の該当ページを読み込むこと		
	4	施設養護の生活特性	乳児院、児童養護施設、障害児施設の生活特性について理解する			教科書の該当ページを読み込むこと		
	5	児童虐待防止に向けた取り組み①	子ども虐待防止ながのオレンジリボンの活動を理解する。			配布資料を読む		
	6	児童虐待防止に向けた取り組み②	子ども虐待防止ながのオレンジリボンの活動に参加し、理解を深める。			配布資料を読む		
	7	アセスメントと個別支援計画	アセスメントや個別支援計画、自立について理解する。			教科書の該当ページを読み込むこと		
	8	記録と自己評価	記録の意義と役割、自己評価について理解する			教科書の該当ページを読み込むこと		
9								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
6	配布資料による講義、事例検討、グループワーク		公益財団法人児童育成協会監修 新・基本保育シリーズ18「社会的養護Ⅱ」(中央法規)		なし		事例検討やグループワークを取り入れ、実践的に学びます。主体的に取り組みましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			木曜日5時限		なし
最終課題		50	レポート提出					
課題提出物		50	提出期限、内容、分量等					
					受講前に学習すること			
					社会的養護や児童虐待に関する記事などに目を通しておいください。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
26	子どもの音楽 I	2	30	必修	演習	1年	前期	山田 齋藤(博) 齋藤(俊) 高倉 山口 飯田 鎌倉 野田 輪湖	
実務経験と授業科目との関連性		中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。(山田)							
講義目的		保育現場では現状ピアノを用いることが多い。個人の演奏技術を高めるとともに現場に即した弾き歌い演奏ができること、既成楽譜が簡易楽譜にアレンジできるようにする。							
到達目標		子どもの発達段階を理解した上で、保育現場の音楽表現に必要なピアノ演奏技術を習得し、子どもの目線に合った音楽表現ができる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	読譜力の練習	高音部譜表・低音部譜表を理解する			読譜練習		全担当教員	
	2	リズム練習とピアノ練習	リズムを理解する			リズム練習		全担当教員	
	3	子どもの歌の指導(1)	生活の歌を練習する			課題曲練習		全担当教員	
	4	子どもの歌の指導(2)	行事の歌 4月～8月を練習する			課題曲練習		全担当教員	
	5	子どもの歌の指導(3)	行事の歌 9月～3月を練習する			課題曲練習		全担当教員	
	6	子どもの歌の指導(4)	季節の歌 3月～5月を練習する			課題曲練習		全担当教員	
	7	子どもの歌の指導(5)	季節の歌 6月～8月を練習する			課題曲練習		全担当教員	
	8	子どもの歌の指導(6)	季節の歌 9月～11月を練習する			課題曲練習		全担当教員	
	9	子どもの歌の指導(7)	季節の歌 12月～2月を練習する			課題曲練習		全担当教員	
	10	子どもの歌の指導(8)	季節外の歌を練習する			課題曲練習		全担当教員	
	11	弾き歌い指導(1)	メロディー(右手)と歌の関係について理解する			弾き歌い練習		全担当教員	
	12	弾き歌い指導(2)	歌とピアノ伴奏の関係について理解する			弾き歌い練習		全担当教員	
	13	コードネームの理解	音の名称と主要3和音を理解する			コードネームの復習		全担当教員	
	14	既成楽譜のアレンジ	メロディー、伴奏をアレンジする			読譜力の復習		全担当教員	
	15	演奏発表	人前での弾き歌い発表			発表の準備		全担当教員	
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
2	個人の読譜力、リズム感を確認しながら、個人レベルに合わせた個人レッスン形式で学修していく。		「保育のピアノ伴奏」阿部直美監修(日本文芸社)、「改訂実習現場で使用された子どもの歌」(学術文芸出版)		「バイエル教則本」(全音楽譜出版)、「幼児の歌110曲集」(ATM出版)		課題で出された楽曲については、次のレッスンまでに必ず弾けるようにしておくこと。		
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準		山田:火曜日5時限 兼任講師:授業終了後		なし		
演奏発表		80	演奏の完成度		受講前に学習すること				
毎回の授業の課題進捗状況		20	練習課題曲数						
					バイエル60番程度まで終了しておくのが のぞましい。				

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
27	子どもと運動遊び	2	30	必修	演習	1年	前期	白金 俊二
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、子どもの運動機能の発達、遊びを引き出す環境について保育現場での遊びを題材に演習を行う。						
講義目的		鬼遊びや用具を使った運動遊びなどの子どもが日常的に行っている遊びの体験を通して、保育現場での実践力を育成する						
到達目標		子どもの運動機能の発達等を理解して、遊び方を工夫したり提案したりすることができる						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション	授業の目的、進め方、服装などについて確認する			シラバスを読む		
	2	多様な動きをつくる運動遊び1	幼児の運動遊びに見られる基本動作を理解し、様々な動作を引き出す遊びについて知る			動ける体づくりを心掛ける		
	3	多様な動きをつくる運動遊び2	様々な動作を引き出す遊びを理解する			配布資料を読む		
	4	いろいろな鬼遊び1	伝統的な鬼遊びについて理解する			体験した鬼遊びをまとめ、グループ毎に創作する鬼遊びの参考とする		
	5	いろいろな鬼遊び2	ルールを工夫した鬼遊びについて理解する					
	6	鬼遊び作りと実践1	前半グループの創作した鬼遊びを発表する			グループ毎に鬼遊びを準備する		
	7	鬼遊び作りと実践2	後半グループの創作した鬼遊びを発表する					
	8	伝統的な遊び1 体力測定1	けん玉の遊び方を知る 自身の体力について知る(握力・立ち幅跳び・上体起こし)			動ける体づくりを心掛ける		
	9	伝統的な遊び2 体力測定2	竹馬の遊び方を知る 自身の体力について知る(反復横跳び・長座体前屈)					
	10	縄跳び運動1	短縄でのいろいろな跳び方を理解する			準備品を確認し、動ける体づくりを心掛ける		
	11	縄跳び運動2	長縄跳びやダブルダッチを知る					
	12	器械運動遊び1	マットと鉄棒を中心に、基本的な体の使い方や補助の仕方を理解する			動ける体づくりを心掛ける		
	13	器械運動遊び2	マットと鉄棒のほか、雲梯や登り棒などにおける基本的な体の使い方や遊び方を理解する					
	14	ボールを使った運動遊び1	ボールを使った基本遊び(渡す・受ける・投げる・転がす・捕る等)を理解する			動ける体づくりを心掛ける		
	15	ボールを使った運動遊び2	ボールを使ったゲームの教材化について理解する					
16								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
2	1 子どもが日常的に行う遊びをグループ等で追究する 2 自己評価カードを用い、運動の理解度を確認する		「運動遊びのアイデアBOOK」白金俊二(ほおずき書籍) 保育内容の指導演法 健康 白金俊二(学術文芸出版)		なし		楽しもうとする姿勢を大切に参加してください	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			水曜日3時限		なし
演習参加状況		50	運動遊びの創作内容			受講前に学習すること		
運動の理解		50	自己評価カードへの記述内容					
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
28	ことばと表現	1	15	選択 (保選)	演習	1年	前期	山藤 宏子	
実務経験と授業科目との関連性		保育現場経験を活かし、実践的な授業を展開する。							
講義目的		子どものことばの獲得と発達について理解し、演習を通して児童文化財に対する知識と技能を習得する。また、自己表現の重要性を理解し、子どもの発達段階に応じ、適切な援助方法について学ぶ。							
到達目標		(1) 子どもの発達段階に応じた児童文化財の活用方法を習得する。 (2) 表現の多様性を理解し、子どものことばを引き出す表現方法・実践力を身につける。							
教育 内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	ガイダンス	領域「言葉」の狙いと内容を理解し、子どもと言葉の関係を概観する						
	2	自己表現とは	保育者として必要な言語・周辺言語表現について理解する			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習			
	3	子どもの言葉の発達	コミュニケーションのツールとしての言葉			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習			
	4	子どもの言葉と環境	話し言葉から読み、書き言葉へ広がる言葉の世界を知る			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習			
	5	児童文化財としての絵本	読み聞かせを通して絵本についての理解を深める			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習			
	6	言葉が持つ音とリズム	オノマトペ、言葉遊びの楽しさを理解する			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習			
	7	児童文化財の製作	絵本製作を通し、年齢に応じた言葉について理解する			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習			
	8	模擬保育の演習	製作した作品を使用しての模擬保育			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習			
	9	定期試験	筆記試験			これまでの復習			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
5	テキスト・配布資料による講義、グループワーク		新、保育実践を支える言葉 成田朋子 (福村出版)		なし		乳幼児のことばの発達と保育者として必要なことばについて理解を深めましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分 (%)	評価基準			木曜日 5 時限		なし	
定期試験		60	筆記試験			受講前に学習すること			
グループワーク、発表への貢献度		20	発言等の参加度						
授業への取り組み		20	レポート提出期限、内容の質						
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
29	生涯スポーツ I	1	15	選択 (保選)	演習	1年	後期	白金 俊二
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、一人ひとりに応じたスポーツとのかかわりについて、一般に普及している種目を題材に演習を行う。						
講義目的		「それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる」ために、一般に普及しているスポーツ種目の学習を通して、実践的な態度を育成する						
到達目標		1) ネット型の球技としてのバレーボールの特性を理解し、3段攻撃を意識したプレーができる 2) ベースボール型・ゴール型の球技の特性を理解し、打つ・投げる・捕る技能や足を使った技能を高める 3) 自分たちが楽しく追究するために必要な教材化について考えることができる						
教育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ネット型の球技 1	バレーボールの特性を理解する			服装・身だしなみを整えてくる		
	2	ネット型の球技 2	バレーボールのルールを理解する			動ける体づくりをしておく		
	3	ネット型の球技 3	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブなどの技能について理解する			動ける体づくりをしておく		
	4	ベースボール型の球技 1	ティーボールなどの教材を知り特性やルールを理解する			動ける体づくりをしておく		
	5	ベースボール型の球技 2	ベースボール型の球技の教材化を理解する			動ける体づくりをしておく		
	6	ゴール型の球技 1	バスケットボールの特性やルールを理解する			動ける体づくりをしておく		
	7	ゴール型の球技 2	フロアホッケーの特性やルールを理解する			動ける体づくりをしておく		
	8	ゴール型の球技 3	ゴール型の球技の教材化を理解する			動ける体づくりをしておく		
9								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
5	チームを適宜編成し、自己評価カードを用いて運動の理解度を確認する		「スポーツの実践と教材化」白金俊二(学術文芸出版)		なし		ケガをしないように取り組みましょう	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			金曜日 5 時限		なし
運動の技能		50	自己評価カード			受講前に学習すること		
運動の理解		50	自己評価カード					
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
30	幼児教育の方法	2	30	選択 (免必・保選)	講義	1年	後期	黒田 和子
実務経験と授業科目との関連性		学校現場経験を踏まえ、幼児教育の方法、教材研究、指導案の作成、情報機器の活用について講義を行う。						
講義目的		乳幼児の心身の発達と、環境を通して養護及び教育を一体的に展開する保育の特性を理解したうえで、養護を保障するために保育士等が行う援助や態度の基本、遊びや生活が豊かに展開される保育の方法を具体的に学ぶ。						
到達目標		乳幼児の心身の発達と、環境を通して養護及び教育を一体的に展開する保育の特性を理解した上で、養護を保障するために保育者が行う援助や態度の基本、遊びや生活が豊かに展開される保育の方法を身につけ、活用できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力について理解する			なし		
	2	幼児教育の基本	幼児教育の基本と幼児教育に期待されるものについて理解する			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習		
	3	幼児への関わり	保育者の話法、行動見本を主とした具体的な関わりについて理解する					
	4	幼児教育の方法①	保護者とのパートナーシップについて理解する					
	5	幼児教育の方法②	自発的活動型保育について理解する					
	6	幼児教育の方法③	規範意識の芽生えの育成について理解する					
	7	教材研究	保育教材に関わる保育の実際と教材研究					
	8	保育実践の現状と課題①	保育形態の種類と活用法について理解する					
	9	保育実践の現状と課題②	保育におけるカウンセリングマインドについて理解する					
	10	情報機器の活用①	情報機器の種類と功罪					
	11	情報機器の活用②	視聴覚教材の活用法					
	12	保育の質①	保育の省察と記録について理解する					
	13	保育の質②	保育の質の評価について理解する					
	14	学びの連続性	小学校教育との連続性について理解する					
	15	協力体制と保育方法の改善	チーム保育の推進と教師の役割について理解する					
16	定期試験	筆記試験						
DP	学修方法		テキスト		参考書			教員からのメッセージ
2	配布資料による講義、グループワーク		各授業で資料を配布する。		①幼児教育の方法 小田豊・青井倫子編（北大路書房） ②幼児教育の指導法 師岡章編		子どもの遊びや生活が豊かに展開される幼児教育の方法を学びましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準					なし
定期試験		60	筆記試験					
グループワーク・発表への貢献度		40	発言等への参加度			受講前に学習すること		なし

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
31	教育実習指導	1	30	選択 (免必)	演習	1年 2年	後期 前期	高橋 典子
実務経験と授業科目との関連性		幼稚園現場経験を踏まえ、実習に必要な事項全般について指導を行う。						
講義目的		教育実習に入る事前学習として、基本的知識と保育技術を学ぶ。事後学習で実習をより有意義な体験に高め、今日における幼児教育の課題や幼稚園教諭・保育教諭としての自己の適性、将来の目標として考える機会となるようにする。						
到達目標		幼稚園等の機能や役割、幼児教育の基本について説明できる。子どもの発達過程や興味・関心に合わせた指導計画を立案できる。実習の省察を通して自己課題を明確にし、幼稚園教諭等としての倫理観、使命感について説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	教育実習の意義と目的、計画、手続きについて理解する（各種書類等確認）			実習要領の確認		
	2	オリエンテーションについて	自己課題の設定とオリエンテーションの内容確認			自己課題の整理		
	3	実習記録について	実習記録による省察の意義と記述法の指導			実習記録の事前記入		
	4	子ども理解と保育方法	責任実習の基本の確認			遊びの研究と主活動の選定		
	5	指導計画の作成	課題活動の指導案を作成する			指導案作成		
	6	教育実習（1年次）の事後指導①	自己評価を通して実習内容を振り返る			実習内容の整理		
	7	教育実習（1年次）の事後指導②	園からの評価を通して実習内容を振り返る			実習内容の整理		
	8	ガイダンス	各種書類の確認、園からの評価を通して実習内容を振り返り、目標をたてる			1年次の実習日誌の読み返し		
	9	実習記録について	記述法の指導、エピソード記述についてのワークをする			実習記録の事前記入		
	10	指導計画の作成①	課題活動の指導案を作成する			遊びの研究と主活動の選定		
	11	指導計画の作成②	年齢ごとの発達を確認する			遊びの研究と主活動の選定		
	12	指導計画の作成③	一日の指導計画を作成する			遊びの研究と主活動の選定		
	13	実習後の手続	実習後に行う手続の確認			配布書類の確認をする		
	14	教育実習（2年次）の事後指導①	自己評価と園からの評価を通して実習を振り返る			実習日誌の読み返し		
	15	教育実習（2年次）の事後指導②	まとめと今後の目標の設定			これまでの要点整理		
16								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
3	講義、グループ討議、個別ワーク 1年次に第1～7回、2年次に第8～15回の授業を行います。		田中まさ子編「三訂 幼稚園・保育所実習ハンドブック」（みらい）、生田恵津子他「教育・保育実習ガイド」（学術文芸出版）		授業内で適宜紹介する		事前・事後学修を通して実習での学びを深めましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分（%）	評価基準			木曜日 5時限		なし
事前準備		30	事前準備の充実度			受講前に学習すること		
事後報告		30	報告内容の充実度					
提出物		40	指導案の充実度			なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員			
32	教育実習	4	180	選択 (免必)	実習	1年 2年	後期 通年	山田 田中 黒田	生田 山藤 田岡	永石 米窪 齋藤	白金 高橋 (博)
実務経験と授業科目との関連性											
講義目的		幼児や幼稚園について理解を深め、具体的な経験を通して幼児教育の内容・方法や保育者に求められる資質や専門性について学習する。									
到達目標		幼稚園・認定こども園の機能、保育者の役割、保育者の資質や専門性について説明できる。観察・責任実習等の具体的な活動を通して、幼児教育の内容・方法について理解できる。									
教 育 内 容	本日の主題	授業概要					事前・事後学修	担当教員			
	<p>1. 幼稚園の基本的機能と役割、子どもの生活や遊びの実態、幼稚園教諭の役割などについて理解する。</p> <p>2. 実習生としての自覚や責任感を持ち、実習に取り組む。</p> <p>3. 実習記録の書き方や指導計画の立て方について理解し、実践する。</p> <p>4. 観察及び参加実習を主とし、これを踏まえて責任実習(部分実習)に取り組む。</p> <p>5. 実習後は、振り返りを行い、教育実習2年次に向けて自己の学習目標と課題を明確にする。</p> <p>*上記について、文部科学省基準に基づき、幼稚園・認定こども園(幼保連携型又は幼稚園型)において10日間の実習を行う。</p>										
DP	学修方法	テキスト		参考書		教員からのメッセージ					
3	幼稚園、幼保連携型又は幼稚園型認定こども園における観察および実践	なし		生田恵津子他「教育・保育実習ガイド」(学術文芸出版)		実習課題を明確にして積極的に実習に臨んでください。					
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件			
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること		実習指導科目の別規定に拠る			
実習状況		50	実習自己課題・実習日誌								
実習園の評価		50	実習園からの評価					受講前に学習すること			
								なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
33	保育実習指導 I	2	60	選択 (保必)	演習	1年	後期	生田恵津子・田岡紀美子
実務経験と授業科目との関連性	各担当が下記の経験を踏まえ、保育実践の展開に必要な事項全般について指導を行う。 【生田：保育現場経験】							
講義目的	保育実習 I に係わる諸手続き（事務内容・実習先との連絡調整など）のほか、主体的に保育実践を展開するために必要な準備全般を理解する。							
到達目標	1) 実習施設の役割と機能が説明できる。 2) 子ども（利用者）の最善の利益、守秘義務などについて説明できる。 3) 実習の計画・実践・記録・省察の方法や内容について、具体的に理解する。 4) 事後指導を通して今後の学習課題を明確にする							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	保育所 ガイダンス	学生生活ガイド、教育・保育実習ガイドを通して保育実習 I の全体像を理解する。			なし		生田
		施設 施設実習の意義と目的	保育実習（施設）の目的と履修方法、社会福祉施設で実習を行う意義について理解する。			テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。		田岡
	2	保育所 保育所とは	保育所の機能と役割を理解し、保育士の役割を学ぶ。			なし		生田
		施設 施設の種類と概要① (グループ作業)	社会福祉施設の種類について講義した後、その概要や取り組みについて調べ学習を行う。			テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。		田岡
	3	保育所 実習先を決める	依頼の仕方を学び、実習先を自ら確保する。			なし		生田
		施設 施設の種類と概要② (グループ作業)	社会福祉施設の概要について講義した後、グループでまとめたものを発表し理解を深める。			テキストの該当頁を読み込むこと。課題を行うこと。		田岡
	4	保育所 実習の概要	保育実習 I のねらいと内容を理解する。			テキスト予習		生田
		施設 障害理解と入所児童の 心情理解	障害児・者支援施設（通所・入所）の概要と障害特性について理解する。また、社会的養護の下で生活する子どもの心情を理解する。			テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。		田岡
	5	保育所 実習記録	実習記録の内容を理解し、記入方法を学ぶ。			なし		生田
		施設 施設の 1 日の流れと実 習内容の理解①	生活施設の事例から、施設生活の流れと実習内容について理解する。			テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。		田岡
	6	保育所 オリエンテーション依頼	オリエンテーションの意味を理解し、依頼する。			なし		生田
		施設 施設の 1 日の流れと実 習内容の理解②	生活施設の事例から、記録の仕方についてグループで話し合い発表する。			テキストの該当ページを読み込み課題を行うこと。		田岡
	7	保育所 記録記入	オリエンテーションで聞き取ったことを記録する。			なし		生田
		施設 施設実習に向けての心得	施設実習に向けた心構えと、子ども・利用者を尊重した関わり、守秘義務について理解する。			配付資料を読み込むこと。		田岡
	8	保育所 子ども理解と保育方法	発達の違いと保育方法の違いを理解する。			なし		生田
施設 実習先施設の選定		長野県保育士養成協議会の協議より分配された本学割り当て先から、実習先を選定する。			希望先を決めてくること。		田岡	

教育内容	9	保育所	課題と学びの計画	自己課題を明確にし、2週間の学びの計画を立てる。	なし	生田
	9	施設	実習準備①（実習先との連絡調整）	オリエンテーションの内容、確認事項等について理解する。実習施設に連絡をおこなう。	実習先への確認事項等を整理しておくこと。	田岡
	10	保育所	指導案作成①	集団遊びの指導案を立てる。	指導案を考えてくること	生田
	10	施設	実習準備②（実習記録・様式の確認）	実習記録の様式を確認し、各項目の記載方法について理解する。	実習記録の記載内容について確認すること。	田岡
	11	保育所	指導案作成②	制作の指導案を立てる。	指導案を考えてくること	生田
	11	施設	実習課題の設定①	実習課題や目標等を設定し、その達成方法についての確認を行う。	実習課題を考えてくること。	田岡
	12	保育所	具体的準備①	自己紹介・手あそび・絵本・歌などを準備する。	なし	生田
	12	施設	実習課題の設定②	実習課題や目標等の確認を行った後、事前学習の内容等の点検を行う。	教員の指示に従い各事項を修正してくる。	田岡
	13	保育所	具体的準備②	腸内細菌検査など、事務的な準備の確認をする。	なし	生田
	13	施設	事前指導のまとめ	巡回指導用地図や施設概要、実習に関わる必要な書類等について作成と確認を行う。	報告書を作成してくる。	田岡
	14	保育所	事後指導①	チェックリストに沿って実習の自己評価をする。	なし	生田
	14	施設	[事後指導]実習の総括と課題の明確化①	実習を振り返り子ども・利用者への支援についてグループで検討する。	実習反省記録を記入してくる。	田岡
	15	保育所	事後指導②	実習報告書に沿って、実習報告を行う。	なし	生田
	15	施設	[事後指導]実習の総括と課題の明確化②	実習の総括及び自己評価を行い、今後の課題を明確にする。	実習反省記録を完成させてくる。	田岡
	16					

DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ
3	テキストや参考資料、配布資料を基に、演習形式で展開する。	「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」(中央法規)大豆生田啓反ほか「五訂 福祉施設実習ハンドブック」(みらい)、生田恵津子他「教育・保育実習ガイド」(学術文芸出版)	なし	実習は、現場でしか体験できない生きた学びです。真摯に向き合う姿勢で臨んでください。

成績評価方法			オフィスアワー	履修条件
評価項目	配分(%)	評価基準	生田：木曜日5時限 松澤：木曜日5時限	なし
事前準備	40		受講前に学習すること	
提出物	30		なし	
受講状況	30			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員			
34	保育実習 I	4	180	選択 (保必)	実習	1年	後期	山田 田中 黒田	生田 山藤 田岡	永石 米窪 齋藤	白金 高橋 (博)
実務経験と授業科目との関連性											
講義目的		既習科目での知識・技術を基礎に、保育所実習では乳幼児との日常を体験しながら保育所の役割や機能、そこでの保育士の業務の実際を知る。 施設実習では施設の概要を把握し、施設の実際を理解する。さらに、利用者への理解を深め、施設の意義などを学ぶ。									
到達目標		1) 保育所・児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2) 子ども(利用者)との関わり、子育て支援の実際を理解する。 3) 保育の計画・実践・記録および自己評価を通して、保育士の業務内容や職業倫理を説明できる。									
教 育 内 容	本日の主題	授業概要					事前・事後学修	担当教員			
	<p>2) 子どもの理解について学ぶ 3) 保育内容・保育環境を学ぶ 4) 保育の計画について知り、観察し記録する 5) 自己評価を通して次の実習への自己課題に気づく</p> <p>〈施設実習〉 1) 施設の機能と役割を学ぶ 2) 子ども・利用者の理解について学ぶ 3) 計画に基づいた活動や援助について学ぶ 4) 専門職としての保育士の役割と倫理を学ぶ 5) 記録に基づく省察と自己評価をする</p> <p>※上記について、保育実習実施基準に基づき、保育所・幼保連携型認定こども園、および指定された施設において概ね11日間の実習を行う。</p>										
DP	学修方法	テキスト		参考書		教員からのメッセージ					
3	観察実習・部分実習	なし		生田恵津子他「教育・保育実習ガイド」(学術文芸出版)		実習を通して、保育士に求められる力量が高まっていくことを期待しています					
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件				
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること		なし			
実習状況		50	実習自己課題・実習日誌			受講前に学習すること					
実習先評価		50									
						1年次夏季休暇中に保育士体験を二日以上しておくことが望ましい。					

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員			
35	基礎ゼミナール	2	60	必修	演習	1年	通年	山田 田中 黒田	生田 山藤 田岡	永石 米窪 齋藤	白金 高橋 (博)
実務経験と授業科目との関連性											
講義目的		保育・幼児教育の関連領域の基礎的学修に対して主体的に取り組む。									
到達目標		1) 保育・幼児教育関連領域の中から、興味・関心の深い学習課題を見出す。 2) ゼミナールごとに取り組む課題へ主体的・能動的に学修する姿勢を身につける。									
教 育 内 容		本日の主題	授業概要			事前・事後学修		担当教員			
	1	基礎ゼミナールのオリエンテーション①	基礎ゼミナールの進め方、内容について確認する。			シラバスを確認する		担当教員全員			
	2	基礎ゼミナールのオリエンテーション②	各ゼミナールの内容を理解する。			保育・幼児教育の関連領域について、自分の興味・関心を考える		担当教員全員			
	3	基礎ゼミナールのオリエンテーション③	2年生による各ゼミナールの紹介を元に、理解を深める。			同 上		担当教員全員			
	4	基礎ゼミナールのオリエンテーション④	同 上			同 上		担当教員全員			
	5	ゼミナールの希望表の作成	保育・幼児教育の関連領域から自分の興味・関心を考え、所属ゼミナールの希望表に記入する。			同 上		担当教員全員			
	6	所属ゼミナールのオリエンテーション	各ゼミの内容について、担当教員からの説明を受ける。			同 上		担当教員全員			
	7	ゼミナールによる研究・活動	各担当教員の指示により、ゼミナールごとに研究・活動を行う。			各ゼミの課題にとりくむ		担当教員全員			
	8	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	9	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	10	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	11	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	12	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	13	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	14	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
	15	同 上	同 上			同 上		担当教員全員			
16	同 上	同 上			同 上		担当教員全員				

教 育 内 容	17	ゼミナールによる研究・活動	各担当教員の指示により、ゼミナールごとに研究、活動を行う。	各ゼミの課題に取り組む	担当教員全員
	18	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	19	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	20	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	21	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	22	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	23	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	24	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	25	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	26	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	27	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	28	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
	29	同 上	同 上	同 上	担当教員全員
30	基礎ゼミナールのまとめ	1年間の基礎ゼミナールを振り返り、今後の課題を見出す。	同 上	担当教員全員	
31					
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ
8	各学生が選択したゼミ担当教員を中心に、少人数形式で学修する。		各教員の指示による	各教員の指示による	興味・関心の深い領域について、主体的・能動的に学修し、ゼミという時間を楽しく共有しましょう。
成績評価方法				オフィスアワー	履修条件
評価項目		配分(%)	評価基準	各教員のオフィスアワーを確認すること	なし
各ゼミの総合評価		100	ゼミ活動への参加度、研究に取り組む姿勢等 配分はゼミによって異なる		
				受講前に学習すること	
				なし	

2. 幼 児 保 育 学 科

<2年生開講科目>

令和5年度 幼児保育学科2年生

授業科目の区分		No.	科目名	担当教員	開設時期			
					前期	後期		
教養基礎科目	ひとの命と健康を考える	1	生命倫理	永石		○		
		2	健康と運動Ⅰ	白金		○		
		3	健康と運動Ⅱ	白金、古屋	○			
		4	こころの科学	田中				
	ひとの生活を考える	5	地域交流実践	米窪	○			
専門教育科目		6	子ども家庭支援論	永石	○			
		7	子ども家庭支援の心理学	田中	○			
		8	子どもの保健	永石	○			
		9	子どもの食と栄養	水野		○		
		10	保育内容の指導法Ⅲ(言葉)	山藤	○			
		11	子どもと造形表現	米窪	○			
		12	乳児保育Ⅱ	高橋	○			
		13	子どもの健康と安全	永石	○			
		14	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	永石		○		
		15	子育て支援	黒田		○		
		16	いのちと環境	米窪	○			
		17	保育・教育相談	田中		○		
		18	子どもの音楽Ⅱ	山田	○			
		19	子どもと絵本	生田	○			
		20	生涯スポーツⅡ	白金		○		
		21	子どもと造形表現論	米窪		○		
		22	幼児保育特講	齋藤(博)	○			
		23	教育実習指導	高橋	○			
		24	教育実習	山田、生田、永石、白金、田中、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)	○	○		
		25	保育実習指導Ⅱ	生田	○	○		
		26	保育実習Ⅱ	山田、生田、永石、白金、田中、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)	○	○		
		27	保育実習指導Ⅲ	田岡	○	○		
		28	保育実習Ⅲ	山田、生田、永石、白金、田中、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)	○	○		
		29	保育・教職実践演習(幼稚園)	田中、山藤、米窪、高橋、黒田、齋藤(博)		○		
		研究演習		30	応用ゼミナール	山田、生田、永石、白金、田中、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)	○	○

※下線は主担当

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
1	生命倫理	2	30	選択	講義	2年	後期	永石 喜代子
実務経験と授業科目との関連性		看護師としての臨床経験、養護教諭養成教育の勤務経験を活かし、人間の生と死をめぐる問題を学生自らが考えられる授業を展開する。						
講義目的		実例や体験、歴史資料などの講義やグループワークを通して、命についての感性を高め、命を慈しむ保育の実践につなげる						
到達目標		1) 自分自身のいのちを見つめ、身近にあるいのちのあり方からいのちについて感じるができる。 2) 感じたいのちを子どもたちにどのように伝えることができるかを考え、実践できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	いのちとは	いのちとは何かを自分自身に問う			(事後) 指示された課題に取り組む。		
	2	いのちへの感覚：昔と今	「いのちの大切さ」の感覚が過去から現在へどのように変化したかを考える					
	3	しょうがいについて	しょうがいを持つ子どもたちのいのちと成長について考える					
	4	子どもたちと病気	子どもたちの闘病と親の気持ちを考える					
	5	難病とともに生きるこども	病気とともに「大人になる」ことを考える					
	6	成長する「いのち」	「こども」とはいつまでなのか、自分の「いのち」は誰が守るのかを考える					
	7	尊厳死と安楽死	死んだらどうなる？ 死生観を考える 大切なものを失った喪失感、死別を考える					
	8	いのちを「看取る」こと	在宅医療・こどもの「死」について考える			(事前) 前回の授業内容を復習する。 (事後) 指示された課題に取り組む。		
	9	グリーフケア・グリーフサポート	死別の悲しみをケアする・乗り越える道のりを考える					
	10	人生の最期にどう在りたい	「もしバナゲーム」から、人生の最期に何が重要？					
	11	絵本や紙芝居の実践者から学ぶ	絵本の読み語りの実践から、子どもたちへの伝え方を考える					
	12	いのちの伝え方	こどもたちにいのちをどう伝えるかを考える					
	13	いのちの伝える手段としての絵本や紙芝居等①	いのちを伝える手段としての絵本や紙芝居等を学ぶ					
	14	いのちの伝える手段としての絵本や紙芝居等②	いのちを伝える手段としての絵本や紙芝居等を学ぶ(特に“ことば”について)					
	15	いのちの伝える手段としての絵本や紙芝居等③	いのちを伝える手段としての絵本や紙芝居等を学ぶ(特に“絵”について)					
16	定期試験	筆記試験			これまでの復習			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1	学生同士の意見交換を交えての講義。		なし		適宜紹介する		実際の事例や絵本、歴史資料を通して、自分と他者のいのちについて一緒に考えましょう	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		授業終了後		なし	
定期試験		70	発表試験(正しい理解をしているか)					
課題		30	課題の内容					
					受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
2	健康と運動 I	1	15	必修	講義	2年	後期	白金 俊二	
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、健康な生活習慣の確立に必要な知識、実践方法について講義を行う。							
講義目的		毎日の生活習慣（食事・休養・運動）の積み重ねがその人の現在と将来の健康状態につながっていることを理解し、健康づくりの土台となる学生時代にその重要性を理解して実践へとつなげる力を育成する。							
到達目標		1) 健康な生活習慣の確立に向けて必要な知識を習得でき、実践する方法を理解できる。 2) 身体活動の意義やオリンピック・パラリンピックの歴史等への理解が深まり、広くスポーツについて関心が高まる。							
教育内容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション	授業の目的、行い方を理解し、自身の健康観について整理する			シラバスを読む			
	2	生活習慣病について1	生活習慣病の具体的病状とその要因について学習する						
	3	生活習慣病について2	生活習慣病の予防としての食事・休養・運動の大切さを学習し、実践方法を理解する						
	4	心の健康と脳の働き1	欲求や感情、ストレス等について理解する						
	5	心の健康と脳の働き2	脳の役割について、運動や学習と脳の関係などについて理解する			教科書に目を通してくる			
	6	古代のスポーツ	遊びとスポーツの関連について、古代オリンピックの歴史や内容について理解する						
	7	近代オリンピックとスポーツの発展	近代オリンピックの歴史や日本のスポーツの発展について理解する						
	8	スポーツ文化の楽しみ方	社会におけるスポーツの役割やライフステージに応じた楽しみ方について考え、まとめる						
	9	定期試験	筆記試験			試験に向けて事前学修に取り組む			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
1	テキストに沿って講義を行う		「健康と運動の理論と実践」白金俊二(学術文芸出版)		なし		主体的・継続的な学習をしていきましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			金曜日5時限		なし	
定期試験		100	選択式・記述式			受講前に学習すること			
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
3	健康と運動Ⅱ	1	30	必修	実技	2年	前期	白金俊二・古屋頭一	
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、条件や状況に応じてレクリエーションを選択、創造する実践力を実技により習得する。							
講義目的		レクリエーションの意義を理解し、その楽しさを幅広い対象者に提供する実践力を育成する							
到達目標		条件や状況等に合ったレクリエーションゲームを選択したり創造したりすることができる							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション	授業の目的、行い方を知り、レクリエーションゲームの意義を理解する			シラバスを読んでくる		白金 古屋	
	2	レクリエーションゲームの体験 (4月15日)	・ネイチャーゲームとイニシアチブゲームの相違点に気づく ・ゲームの導入、展開、まとめの方法を理解する			ゲームのねらいや行い方を振り返る (事後)		白金 古屋	
	3								
	4								
	5	レクリエーションゲームの創造1	ゲームのアイデアを出し合い、ゲームの方向性を定める			ゲームのアイデアを考えてくる (事前)		白金 古屋	
	6	レクリエーションゲームの創造2	ゲームの内容の詳細を確かめる			ゲームの内容とねらいを再考する (事後)		白金 古屋	
	7	レクリエーションゲームの創造3	ゲームに必要な用具を準備する			ゲームの準備をする (事前)		白金 古屋	
	8	レクリエーションゲームの創造4	ゲームに必要な用具を整え、最終確認する			ゲームの準備をする (事前)		白金 古屋	
	9	レクリエーションゲームの実践 (5月20日)	ゲームの発表を行う			ゲームの導入や終末を確認しておく 他のグループのゲームを記録する		白金 古屋	
	10								
	11								
	12								
	13								
	14	レクリエーションゲームの振り返り	記録をもとに実践したゲームを振り返り評価する			ゲームの記録をまとめる		白金 古屋	
	15	レクリエーションゲームのまとめ	ゲーム集を作成する			各ゲームを振り返る		白金	
16									
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
1	グループ単位での活動を中心に学ぶ		なし 随時プリントを配布する		なし		集中講義に向けてスケジュール調整と体調管理をしておく		
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件		
評価項目		配分 (%)	評価基準			白金：水曜日3時限 古屋：授業終了後		なし	
ゲーム実践の技能		50	導入・展開・まとめの技能						
グループワーク参加状況		50	ゲームのねらいや内容			受講前に学習すること			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
4	こころの科学	2	30	選択	講義	2年	後期	田中 秀明	
実務経験と授業科目との関連性		児童発達支援センター、放課後等デイサービス、認定こども園等での心理臨床活動経験を踏まえ、保育・幼児教育の基礎的事項、発達に応じた保育援助について講義を行う。							
講義目的		子どもの心の理解と支援に関わる心理学の基本的知識を学ぶ。							
到達目標		1) 子ども理解に役立つ心理学の知見や、ひとの心の仕組み・機能に関する基本的知識を理解し、説明できる。 2) 子どもを対象とした心理臨床の基礎知識を理解し、説明できる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション 心理学とは	授業の内容やルールを理解する。心理学の学問体系の概要を理解する。			テキストの該当部分をよむ			
	2	行動科学(1)	行動とは何か。心理学における行動の科学的基盤を学ぶ。			テキストの該当部分をよむ			
	3	行動科学(2)	2種類の行動(レスポナント行動とオペラント行動)を学ぶ。			テキストの該当部分をよむ			
	4	応用行動分析学(1)	応用行動分析学とはどのような学問かを学ぶ。			テキストの該当部分をよむ			
	5	応用行動分析学(2)	ABC分析、強化と弱化、好子と嫌子とは何かを学ぶ。			テキストの該当部分をよむ			
	6	応用行動分析学(3)	行動問題および機能分析について学ぶ。			テキストの該当部分をよむ			
	7	子どもへの関わり方(1)	事例に基づくABC分析とその支援のポイントについて学ぶー消去についてー			テキストの該当部分をよむ			
	8	子どもへの関わり方(2)	事例に基づくABC分析とその支援のポイントについて学ぶープロンプトについてー			テキストの該当部分をよむ			
	9	子どもへの関わり方(3)	事例に基づくABC分析とその支援のポイントについて学ぶーシェイピングと課題分析についてー			テキストの該当部分をよむ			
	10	子どもへの関わり方(4)	事例に基づくABC分析とその支援のポイントについて学ぶートークンについてー			テキストの該当部分をよむ			
	11	子どもへの関わり方(5)	事例に基づくABC分析とその支援のポイントについて学ぶー代替行動と競合行動についてー			テキストの該当部分をよむ			
	12	TEACCHプログラムについて	TEACCHプログラムとは何かを学ぶ			テキストの該当部分をよむ			
	13	コミュニケーション支援について(1)	神経発達症と指さし、三項関係、共同注意、心の理論について学ぶ			テキストの該当部分をよむ			
	14	コミュニケーション支援について(2)	社会性の観点から捉えたコミュニケーション支援について学ぶ			テキストの該当部分をよむ			
	15	コミュニケーション支援について(3)	AACとPECSを学ぶ			テキストの該当部分をよむ			
16	定期試験	筆記試験			指示された出題範囲について準備する				
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
4	1 テキスト・プリント教材に基づく広義 2 授業中の課題についてレポートの提出		保育者ができる気になる行動を示す幼児への支援 野呂文行・高橋雅江監修(学苑社)		なし		子どもの様々な姿に気づき、保育者としての専門性を向上させましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)		評価基準		水曜日3時限		なし	
定期試験		60		筆記試験		受講前に学習すること			
課題提出		40		定期課題の提出と内容					
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
5	地域交流実践	1	30	選択	演習	2年	前期	米窪 洋介
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		地域社会における現状を理解するとともに、地域のニーズや問題点を把握し、保育を通じた地域貢献としての活動を企画し実践する力を身につける。						
到達目標		1) 地域社会が抱える現状を説明することができる。 2) 地域を活性化させるための活動を企画し実行することができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション	授業の進め方と到達目標を確認する。			本授業の進め方と到達目標を確認しておく。		
	2	地域社会の現状	社会の現状について理解を深め、保育者としての役割を考える。			次の主題を確認しておく。		
	3	地域調査①	地域について理解を深め、地域との繋がりを探る。			次の主題を確認しておく。		
	4	地域調査②	調査結果を発表し、地域の特性について理解する。			次の主題を確認しておく。		
	5	地域社会のニーズ①	地域社会におけるニーズと問題点について学ぶ。			次の主題を確認しておく。		
	6	地域社会のニーズ②	地域社会との関わり方について学ぶ。			次の主題を確認しておく。		
	7	地域交流の企画と実践①	地域交流として、発表会のテーマ設定と内容の検討。			次の主題を確認しておく。		
	8	地域交流の企画と実践②	地域交流として、発表会の企画案を作成する。			次の主題を確認しておく。		
	9	地域交流の企画と実践③	発表会の小道具や衣装の製作について造形的な技法を学ぶ。			次の主題を確認しておく。		
	10	地域交流の企画と実践④	発表会の役割や進行の方法について学ぶ。			次の主題を確認しておく。		
	11	地域交流の企画と実践⑤	言語を用いた表現方法について実践的に学ぶ。			次の主題を確認しておく。		
	12	地域交流の企画と実践⑥	ロールプレイを行いながら、企画の改善を行う。			次の主題を確認しておく。		
	13	交流会①	地域交流の企画について、実践する。			次の主題を確認し、準備しておく。		
	14	交流会②	地域交流の企画について、振り返りと反省を行う。			次の主題を確認し、準備しておく。		
	15	まとめ	授業の総括をする。			これまでの復習をしておく。		
16								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1	主題に応じて、実践的な学習方法(学外授業等)を取り入れる場合があります。		なし		なし		地域の方々と交流を深める授業です。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			月曜日3時限		なし
課題		50	内容と提出状況			受講前に学習すること		
グループワーク		50	企画とプレゼンの内容					
						なし		

科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
6	子ども家庭支援論	2	30	選択 (保必)	講義	2年	前期	永石 喜代子	
実務経験と授業科目との関連性		看護師・養成教諭養成教育の勤務経験を活かし、子育て家庭に対する支援について、実践的な授業を展開する。							
講義目的		子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、「保育」の専門性を活かした、子育て家庭に対する支援体制、現状、課題について学ぶ							
到達目標		1) 子ども家庭支援の意義・目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義とそれに関わる基本事項を理解している。 2) 子育て家庭への支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、子ども家庭支援の現状・課題を理解している。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	子ども家庭支援の意義と必要性・オリエンテーション	授業の内容・ルールを確認する。 子ども家庭支援の意義と必要性について理解する。			シラバスを読む			
	2	子ども家庭支援の目的と機能	子ども家庭支援の目的と機能について理解する。						
	3	保育の専門性を活かした子ども家庭支援	保育の専門性を確認するとともに、子ども理解・保護者理解の視点について学ぶ。						
	4	子どもの育ちの喜びの共有	子どもの育ちの喜びを保護者と共有することの大切さを理解する。						
	5	保護者及び地域が有する自ら実践する力の支持	保護者・地域がもっている子育ての実践力の向上に資する支援について理解する。						
	6	保育士に求められる基本的態度	受容的関わり、自己決定の尊重、秘密の保持などの基本的態度について理解する。						
	7	家庭の状況に応じた支援	子育て家庭には様々な状況があることを確認し、個別に必要な支援をする大切さを理解する。			事前学修は、教科書の該当ページを読む。 事後学修は、テキストを再度読み、授業の復習・ノートの整理をする。			
	8	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	地域の社会資源について確認し、それらを活用・連携・協力することの大切さを理解する。						
	9	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	子育て家庭の福祉に関わる社会資源を理解し、それらの機能や役割を確認する。						
	10	子育て支援施策・次世代育成支援策の推進	子育て支援に関わる施策の内容を確認する。						
	11	子ども家庭支援の内容と対象	妊娠期から子育て期にわたる様々な子ども家庭支援の内容について理解する。						
	12	保育所等を利用する子育て家庭への支援	保育所における子ども家庭支援の内容を確認する。						
	13	地域の子育て家庭への支援	地域の子育て家庭への支援の内容について理解する。						
	14	要保護児童およびその家庭に対する支援	要保護児童およびその家庭に対する支援の内容について理解する。						
	15	子ども家庭支援の現状と課題	子ども家庭支援の現状と課題について確認する。						
16	定期試験	筆記試験			授業全体の内容を復習する。				
DP	学修方法		テキスト		参考書			教員からのメッセージ	
7	テキストと配布資料、スライドをもとに講義形式で授業を進める。		新：基本保育シリーズ「子ども家庭支援論」5 公益財団法人 児童育成協会（監修）中央法規		保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典（ミネルヴァ書房）			2年には子育て家庭支援に関わる授業が多くあります。その基本部分を確認しましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー			履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		授業終了後			なし	
定期試験		70	筆記試験						
課題提出		30	課題提出の有無と学習効果		受講前に学習すること		なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
7	子ども家庭支援の心理学	2	30	選択 (保必)	講義	2年	前期	田中 秀明
実務経験と授業科目との関連性		児童発達支援センター、放課後等デイサービス、認定こども園等での心理臨床活動経験を踏まえ、生涯発達心理学、家族・家庭の意義、子育て家庭の現状、子どもの精神保健について講義を行う。						
講義目的		生涯発達に関する心理学の基礎的知識を修得し、家庭・家族の意義や家族関係を発達の観点から理解する。さらに子育て家庭の現状と子どもの精神保健についても理解する。						
到達目標		1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を身につける。2. 家族・家庭の意義や機能について理解している。3. 子育て家庭をめぐる現状と子どもの精神保健について理解している。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	生涯発達という視点と考え方	生涯発達とは何か。また初期経験の重要性、発達課題、ライフサイクルについて学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	2	人間の発達過程 (1) 乳児期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	3	人間の発達過程 (2) 幼児期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	4	人間の発達過程 (3) 学童期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	5	人間の発達過程 (4) 青年期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	6	人間の発達過程 (5) 成人期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	7	人間の発達過程 (6) 老年期	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	8	家族・家庭の意義と機能	子どもが育つ場として重要な意味をもつ家族・家庭の役割について考える。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	9	親子関係・家族関係の理解	親子・家族の関係について理解し、家族の発達を考える。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	10	子育て家庭に関する現状と課題	子育てをとりまく社会的状況と子育て家庭が抱えるさまざまな課題について概説する。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	11	ライフコースと仕事・子育て	男女共同参画社会の実現、ワークライフ・バランスについて考える。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	12	多様な家庭とその理解	現代の多様な家族・家庭について理解し、個別的な援助を考える。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	13	特別な配慮を要する家庭	病気・障害・貧困など、特別な配慮を必要とする家庭について考える。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	14	子どもの精神保健とその課題	子どもの生活・生育環境とその影響について理解する。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	15	子どもの心の健康に関わる問題	子どもの心の健康をとらえる視点と具体的な症状について学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
16	定期試験	筆記試験			指定された出題範囲について準備する。			
DP	学修方法		テキスト	参考書		教員からのメッセージ		
2	1. テキスト・配布資料に基く講義 2. 主題に応じてグループワークとレポート・発表を取り入れる		シリーズ知のゆりかご「子ども家庭支援の心理学」青木紀久代編(みらい)	なし		家族・家庭をめぐるさまざまな問題に目を向け、共に考えてみたいと思います。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			なし		
定期試験	60	筆記試験の記述内容						
課題に応じたレポート	40	指示された課題へのとりくみと内容			受講前に学習すること			
1年前期に履習した「保育・教育の心理学」のテキスト・配布資料により、子どもの発達について復習しておく。								

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
8	子どもの保健	2	30	選択 (保必)	講義	2年	前期	永石 喜代子
実務経験と授業科目との関連性		看護師・養護教諭養成教育の勤務経験を活かし、子どもの保健活動について学生自らが考えられるような授業を展開する						
講義目的		子どもの心と身体の成長発達を理解し、子どもが健やかに育つための保健活動についての知識を習得する						
到達目標		1) 子どもの心身の健康、保健活動の意義・目的を説明できる。 2) 子どもの身体的発育・発達と保健、健康状態の把握の仕方、予防方法を説明できる。 3) 他職種間連携のもとでの適切な対応の仕方を説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	子どもの心身の健康と保健活動の意義について理解する			なし		
	2	子どもの保健の諸統計	諸統計を学び、保育士として子どもの保健を学ぶ意義について考える健康診断			なし		
	3	子どもの心身の発達	心身の発達の原則とその評価について理解する			自分の出生時の体重・身長を調べる		
	4	子どもの生理機能の発達①	生体の成り立ち、呼吸・体温・循環の発達について学ぶ子ども虐待防止			高校生物の復習をしておく		
	5	子どもの生理機能の発達②	消化吸収・排泄・睡眠の発達について学ぶ			高校生物の復習をしておく		
	6	子どもの脳神経系の発達	脳神経系の基本的知識を押さえておく			高校生物の復習をしておく		
	7	子どもの運動機能の発達	運動機能の発達を学び、その発達を促すことのできる保育を考える			高校生物の復習をしておく		
	8	子どもの感覚の発達	視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚の発達とその評価について学ぶ			高校生物の復習をしておく		
	9	子どもの歯の発達	歯の発達とケアについて学ぶ			高校生物の復習をしておく		
	10	子どもの病気と予防・手当①	子どもの病気の特徴について理解する			テキストを読む		
	11	子どもの病気と予防・手当②	先天異常、呼吸器・循環器の病気について知る			テキストを読む		
	12	子どもの病気と予防・手当③	血液・消化器の病気、悪性腫瘍について知る			テキストを読む		
	13	子どもの病気と予防・手当④	精神神経系・泌尿器・生殖器・皮膚の病気について知る			テキストを読む		
	14	子どもの病気と予防・手当⑤	整形外科・口腔・眼・耳・鼻の病気について知る			テキストを読む		
	15	子どもの病気と予防・手当⑥	内分泌の病気、予防接種について知る			テキストを読む		
	16	定期試験	筆記試験			これまでの復習をしておく		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
4	講義・レポート		新・基本保育シリーズ11「子どもの保健」公益財団法人児童育成協会監修(中央法規)		なし		子どもの保健は常に発展し続けています。日々、新しく正しい情報収集を心がけるようにしましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			授業終了後		なし
定期試験		60	筆記試験			受講前に学習すること		なし
レポート		40	記述内容					
					子どもの心と身体についてだけでなく、自分の心と身体にも関心を持って生活すること			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
9	子どもの食と栄養	2	30	選択 (保必)	演習	2年	後期	水野 尚子
実務経験と授業科目との関連性		保健センターにおける乳幼児健診での栄養指導の経験を活かし、授業を展開する。						
講義目的		子どもの栄養と食生活は、生涯にわたり健康の基礎が形成されるため食生活の意義や栄養に関する基礎的知識を学ぶ。子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、心身ともに健やかに成長できるよう食育の必要性と関連させ、専門性を養う。						
到達目標		保育士として子どもの栄養・食生活についての正しい知識と技術を習得し実践に結び付けることができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活の関連。食生活の現状と課題について学ぶ			テキストの該当部分を読んでくること		
	2	子どもの発育・発達と食生活	栄養素と働きに関する基礎知識、日本人の食事摂取基準、献立の立て方について理解する			テキストの該当部分を読んでくること		
	3	栄養に関する基本的知識	栄養素と働きに関する基礎知識、日本人の食事摂取基準、献立の立て方について理解する			テキストの該当部分を読んでくること		
	4	妊娠期・授乳期の栄養・食生活について	妊娠期の食生活や母乳栄養・人工栄養・混合栄養の特性について理解する			テキストの該当部分を読んでくること		
	5	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	母乳・人工栄養（育児用ミルク）の特性を知り、離乳の意義について理解する。			テキストの該当部分を読んでくること		
	6	調乳と離乳食の基本	離乳食・幼児食を作るために調理の基礎および必要な技能を習得する。だしをとる。			テキストの該当部分を読んでくること		
	7	離乳期の調理	離乳食の進め方。離乳食の基本であるおかゆの調理を通して各期の固さについて理解する。			テキストの該当部分を読んでくること		
	8	幼児期の食生活	幼児期の栄養の特性を知り、食機能の発達と成長について理解する。			テキストの該当部分を読んでくること		
	9	幼児期の調理	幼児期の発育に適した幼児食について理解する。			テキストの該当部分を読んでくること		
	10	幼児期の間食と弁当づくり	幼児期の発育に適した間食と弁当の選び方を学び、間食と弁当をつくる。量とバランスについて学ぶ。			テキストの該当部分を読んでくること		
	11	学童期・思春期の栄養と食生活	学童期・思春期の心身の特性、学校給食について理解する。			テキストの該当部分を読んでくること		
	12	食育の基本と内容	食を通じた養護と教育の一体性を理解する。食育媒体の作成。			テキストの該当部分を読んでくること		
	13	生涯発達と食生活	ライフステージ・成人期と高齢期の食生活について。			テキストの該当部分を読んでくること		
	14	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭での食生活のあり方と児童福祉施設での給食の役割や食生活について理解する。			テキストの該当部分を読んでくること		
	15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子どもへの対応、食物アレルギー、障がいのある子どもへの対応について理解する。			テキストの該当部分を読んでくること		
	16	定期試験	筆記試験			これまでの復習		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
4	講義及び講義内容を踏まえた調理実習・演習を行う。		子育て・子育てを支援する「子どもの食と栄養」堤ちはる・土井正子編著（萌文書林）		なし		調理実習では三角巾、エプロン、手拭きが必要です。動きやすい服装で参加してください。	
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			授業終了後	なし	
定期試験		70	筆記試験					
レポート・課題		30	記述内容			受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
10	保育内容の指導法Ⅲ (言葉)	1	15	必修	演習	2年	前期	山藤 宏子
実務経験と授業科目との関連性		保育現場での経験を活かし、子どもが言葉を獲得していく過程、言葉の発達のための援助方法について実践的な授業を展開する。						
講義目的		子どもが言葉を獲得していくために必要な大人の働きかけや環境の重要性を学び、感性・表現力・思考力・コミュニケーション力などが言葉によって育つことを理解し、援助方法を学ぶ。						
到達目標		(1) 児童文化財について基礎的な知識を身につける。 (2) 児童文化財をどのように保育に役立てていけば良いかを理解し実践できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	児童文化財の特質と意義	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の特質と意義を理解する。					
	2	児童文化財の製作 1	軍手人形の製作 基礎					
	3	児童文化財の製作 2	軍手人形の製作 応用					
	4	児童文化財の製作 3	パネルシアターの製作 基礎					
	5	児童文化財の製作 4	パネルシアターの製作 応用			前回の授業内容の復習と次回の主題の予習		
	6	児童文化財の製作 5	パネル版の製作					
	7	言葉に着目した指導案の作成	製作した作品を使用した指導案を作成する					
	8	まとめ	保育現場での児童文化財の使用と子どもの言葉の関連を理解する。					
9	定期試験	筆記試験			これまでの復習			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
1	テキスト・配布資料による講義、グループワーク		無藤隆監修「新訂事例で学ぶ保育内容〈領域〉言葉」(明文書林)		なし		子どもの言葉だけではなく、保育者の言葉についても考えていきましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準					なし
定期試験		20						
グループワーク、発表への貢献度		20	定期的な課題提出					
授業への取り組み		60	授業・演習への参加状況			受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
11	子どもと造形表現	1	15	必修	演習	2年	前期	米窪 洋介
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		子どもたちが安心して自己表現できるように多様な表現方法を学び、安全に配慮しながら造形活動を展開するための指導法を修得する。						
到達目標		1) 造形表現活動に必要な道具の種類や扱い方について理解することができる。 2) 子どもたちの感性や創造性を豊かにするための活動を展開できる。						
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	1 オリエンテーション	授業の進め方と到達目標を確認する。				シラバスを確認しておく。		
	2 切り紙	子どもの発達に合わせた、切り紙の遊び方を学び、保育における活用方法について理解する。				授業の振り返りをレポートにまとめる。		
	3 染め紙	子どもの発達に合わせた、染め紙の遊び方を学び、保育における活用方法について理解する。						
	4 スタンピング	子どもの発達に合わせた、スタンプの遊び方を学び、保育における活用方法について理解する。						
	5 ポップアップ	子どもの発達に合わせた、ポップアップの仕掛けの方法を学び、保育における活用方法について理解する。						
	6 張り子の帽子①	行事や発表会などで活用できる帽子の作り方を学び、デザインを考える。						
	7 張り子の帽子②	行事や発表会などで活用できる帽子の製作と加工方法を学ぶ。						
	8 シャボン玉あそび	子どもの発達に合わせた、シャボン玉の遊び方を学び、保育における活用方法について理解する。						
9								
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
5	演習形式で授業を行い、振り返りをレポートにまとめます。	佐善圭「造形のじかん」(愛智出版)	なし	表現の魅力について体感できる授業です。				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準		月曜日3時限		なし		
課題	50	内容と提出状況		受講前に学習すること				
レポート	50	各課題の振り返りの内容						
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
12	乳児保育Ⅱ	1	15	選択 (保必)	演習	2年	前期	高橋 典子	
実務経験と授業科目との関連性		公立保育所における保育士・園長としての勤務経験を基に、乳児保育について実践的な授業を展開する							
講義目的		3歳未満児の発育・発達の課程や特性を踏まえた保育者の関わりの基本を理解し、生活や遊びを通して展開される保育の実際を学ぶ							
到達目標		3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助やかかわりについての基本的な考え方、養護及び教育の一体性を踏まえた3歳未満児の生活や遊び、保育環境とその配慮、及び係る保育計画について具体的に理解できる。							
教育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション グループ討議	授業の進め方を理解し、グループごとに発達の柱を話し合う			シラバスを読んでおく			
	2	0歳児～2歳児の発達(1)	0ヶ月から12ヶ月までの発達マップを作る			グループで発達の柱を決めておく			
	3	0歳児～2歳児の発達(2)	13ヶ月から24ヶ月までの発達マップを作る			乳児保育士の発達と保育について復習してくる			
	4	0歳児～2歳児の発達(3)	25ヶ月から35ヶ月までの発達マップを作る			乳児保育士の発達と保育について復習してくる			
	5	0歳児～2歳児の発達(4)	0ヶ月から35ヶ月の保育マップを作る			乳児保育Ⅰの発達と保育について復習してくる			
	6	0歳児～2歳児の発達(5)	保育マップの発表をする①			発表の練習をして くる			
	7	0歳児～2歳児の発達(6)	保育マップの発表をする②			発表の練習をして くる			
	8	3歳未満児の保育指導計画	互いの指導計画を見合いながら、指導計画のポイントを理解する			自身が決めた年齢の指導計画を立ててくる			
9	定期試験	筆記試験							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
4	乳児保育Ⅰの学び及び、テキストを基に、グループワークを中心に行う。		阿部和子他編著 シリーズ「乳児保育の理論と実践」(光生館)1年時使用と同じ		汐見稔幸他監修「(平成30年施行)保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」(ミネルヴァ書房)		乳児保育の具体についての学びです。グループ討議、グループ作業において積極的な取り組みを期待します。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)		評価基準		木曜日5時限		なし	
ポートフォリオ		50		乳児の発達を理解した記述内容 グループワーク、発表での取り組み		受講前に学習すること			
定期試験		50		筆記試験					
						乳児保育Ⅰの復習			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
13	子どもの健康と安全	1	15	選択 (保必)	演習	2年	前期	永石 喜代子
実務経験と授業科目との関連性		看護師・養護教諭養成教育の勤務経験を活かし、子どもの健やかで安全な生活について実践的な授業を展開する。						
講義目的		子どもが健やかで安全に生活できる保育環境を理解し、適切な保育環境を展開する技術を習得する。						
到達目標		1) 保健的観点を踏まえた保育の環境構成や子どもへの援助方法を実践できる。 2) 健康・安全管理、体調不良・感染症等への具体的な対応・対策方法を実践できる。 3) 健康・安全管理の実施体制を説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	保健的観点をふまえた保育環境とは何かを理解する			なし		
	2	保育における健康と安全管理	健康で安全な環境について学ぶ			周囲を見回し、危険な場所を考える		
	3	子どもの体調不良とけがの対応	体調不良児の対応とけがの応急手当について学ぶ			前回の復習		
	4	事故発生時の対応	救急蘇生法を習得する・災害時の対応を学ぶ			講習を受けた救急法について復習する		
	5	子どもの感染症対策	感染症対策ガイドラインに基づく予防と対応について学ぶ			前回の復習		
	6	保健的配慮を要する子どもへの対応①	3歳未満児への対応について学ぶ			前回の復習		
	7	保健的配慮を要する子どもへの対応②	アレルギー性疾患、その他慢性疾患への対応について学ぶ			前回の復習		
	8	子どもの保健指導と保健活動	子どもの保健行事、保健指導、保健活動について学ぶ			自分自身の心と体をみつめる		
	9	定期試験	筆記試験			これまでの復習をしておく		
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
4	講義・演習・レポート		新・基本保育シリーズ16「子どもの健康と安全」公益財団法人児童育成協会監修(中央法規)		なし		子どもの健康と安全のために自分ができることを常に考えながら授業に参加してください	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			授業終了後		なし
定期試験		40	筆記試験			受講前に学習すること 現在社会において子どもが生活する環境とはどのようなものか知っておくこと		
演習参加状況		40	積極性					
レポート		20	記述内容					

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
14	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	2	30	必修	演習	2年	後期	永石 喜代子	
実務経験と授業科目との関連性		看護師・養護教諭養成教育の勤務経験を活かし、特別支援教育の在り方を考える授業を展開する。							
講義目的		<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする幼児の障害像、特性を理解し、特別支援教育のあり方を学ぶ。 様々な事例を通して、健常児との保育実践を知る。 保護者や関係機関との連携の仕方を学ぶ。 							
到達目標		特別な支援を必要とする子どもの状態を理解、説明することができ、発達段階に添った保育、教育実践が工夫できる							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	特別支援教育について	特別な支援を必要とする幼児の特別支援教育とは何かを理解する			シラバスを読んでおく			
	2	乳幼児期の正常発達について①	幼児教育に必要な乳幼児期の正常発達(粗大運動・巧緻運動)について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	3	乳幼児期の正常発達について②	幼児教育に必要な乳幼児期の正常発達(基本的生活習慣・言語・コミュニケーション・社会性)について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	4	乳幼児期の正常発達について③	幼児教育に必要な乳幼児期の正常発達(認知機能・感覚)について学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	5	障害の特性について	特別な支援を必要とする幼児の発達をどうとらえるか、障害の特性による困難さを理解する			テキストの該当箇所を読んでおく			
	6	運動障害について	運動障害(肢体不自由、医療行為が必要な疾患)をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	7	知的障害について	知的障害をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	8	発達障害について①	発達障害をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ(自閉スペクトラム症)			テキストの該当箇所を読んでおく			
	9	発達障害について②	発達障害をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ(注意欠陥多動症)			テキストの該当箇所を読んでおく			
	10	発達障害について③	発達障害をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ(その他の発達障害)			テキストの該当箇所を読んでおく			
	11	感覚障害、内部障害について	感覚障害(視覚、聴覚等)、言語障害、内部障害(病弱等)をもつ幼児の特性と支援のあり方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	12	健常児との幼児教育実践について	クラス集団の作り方、対応の仕方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	13	個別指導計画、教育指導計画の立て方について	特別支援教育をふまえての個別の指導計画、教育指導計画の立て方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	14	保護者支援、関係機関との連携について	保護者への支援や関係機関との連携、就学への援助の仕方を学ぶ			テキストの該当箇所を読んでおく			
	15	外国籍、貧困について	外国籍(母国語の違い)や貧困・虐待等の問題により、特別な教育支援が必要な場合の方法を理解する			テキストの該当箇所を読んでおく			
	16	定期試験	筆記試験			授業の振り返り、復習をしておく			
DP	学修方法		テキスト	参考書		教員からのメッセージ			
4	教員が、テキスト、配布資料をもとに講義形式で授業を進める		「特別な支援を必要とする子どもの理解：共に育つ保育を目指して」勝浦真二(編集)ナカニシ出版	その都度紹介する		医療職としての立場から、児・保護者・支援者に関わってきた。経験から障害児保育に何が必要か伝えたい。			
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件		
評価項目		配分(%)	評価基準			授業終了後	なし		
定期試験	70	筆記試験(択一式、論述形式)							
課題提出	30	課題提出の有無と内容			受講前に学習すること				
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
15	子育て支援	1	30	選択 (保必)	演習	2年	後期	黒田 和子
実務経験と授業科目との関連性		教員の経験から子育て支援について具体例を交えながら授業を展開する。						
講義目的		保育士の行う子育て支援の特性や、内容・方法・技術について学ぶ。						
到達目標		1) 保育士の専門性を背景とした保護者支援の特性と展開方法を理解できる。 2) 保育士が行う子育て支援について、実践事例などを交えながら、様々な場面や対象に即した支援内容と方法を理解し、基本技術を扱うことができる。						
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修		担当教員
	1 保育士が行う子育て支援の特性・オリエンテーション	授業の内容・ルールを確認する。保育士が行う子育て支援の特性を概観する。				シラバスを読む。 授業の復習をする。		
	2 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	日常的・継続的な関わりを通じた支援と、保護者とのコミュニケーションについて考える。						
	3 子育て・子育てニーズへの気づきと多面的な人間理解	多様なニーズに対応する子育て支援のあり方を確認し、演習を通して考える。						
	4 子どもおよび保護者の状況・状態の把握	子ども・保護者の状況を確認するアセスメントの手順を確認し、整理・記述の方法を練習する。						
	5 子育て支援の計画	子育て支援の内容や計画の組み立てのイメージを確認し、支援計画を立てる練習をする。						
	6 子育て支援の環境構成	保育所や地域の子育て支援における環境構成の意義を学び、工夫例を演習を通して考える。						
	7 子育て支援の具体的手段	支援の実践・記録・評価・カンファレンスの一連の流れについて演習を通して理解する。				事前学修は、教科書の該当ページを読む。 事後学修は、テキストを再度読み、授業の復習・ノートの整理をする。		
	8 子育て支援の技術	保育士の専門的な知識・技術を活用した支援の実践について考え、事例をもとに練習する。						
	9 職員間の連携・協働	職員間の連携・協働の必要性を確認し、保育所における連携・協働を演習を通して体感する。						
	10 社会資源、自治体・関係機関や専門職との連携・協働	身近にある社会資源の種類を理解し、それぞれの役割や機能の特徴を演習を通して整理する。						
	11 保育所等における子育て支援	保護者の子育てに関する主な相談内容を確認し、支援のあり方について考える。						
	12 特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援	特別な配慮を要する子ども・家庭への支援の様々な例と支援の基本的考え方を理解する。						
	13 子ども虐待の予防と対応	虐待の種類を確認し、虐待が疑われる親子への対応について考える。						
	14 要保護児童およびその家庭に対する支援	要保護児童と家族の問題を確認し、家族のつながりや親子関係の再構築について考える。						
	15 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援	多文化共生社会における子育て支援について学び、実践例を考える。						
16 定期試験	筆記試験							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
7	テキストと配布資料を基に、グループワークを中心に行う。		保育所・認定こども園・幼稚園の子育て支援 倉石哲也：編集代表 中央法規		なし		演習を多く含みます。積極的な取り組みに期待します。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
定期試験		50	筆記試験					
演習への取り組み		50	保育士の専門性を背景とした保護者支援の展開を理解しているか		受講前に学習すること			
					なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員		
16	いのちと環境	2	30	選択 (保選)	演習	2年	前期	米窪 洋介		
実務経験と授業科目との関連性										
講義目的	子どもの成長および発達における自然環境との関わりについて理解を深め、自然と関わるための保育実践力を身につける。									
到達目標	1) 子どもの成長・発達における自然環境の意義について、説明できる。 2) 子どもと自然とのかかわりを想定した保育実践力を身につけ、実行できる。									
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員			
	1	オリエンテーション	授業の進め方と到達目標を確認する。				シラバスを確認しておく。			
	2	子どもの育ちと環境	環境とのかかわりを通した、子どもの成長について学ぶ。				前回の授業の振り返りと指示された課題に取り組む。			
	3	「いのち」について	身のまわりの生命について考える。							
	4	自然の役割について	山や森などの機能について学ぶ。							
	5	自然との関わり①	保育における「土」との関わりについて学ぶ。							
	6	自然との関わり②	保育における「水」との関わりについて学ぶ。							
	7	自然との関わり③	保育における「空・天気」との関わりについて学ぶ。							
	8	自然との関わり④	保育における「つくる」との関わりについて学ぶ。							
	9	自然との関わり⑤	保育における「火」との関わりについて学ぶ。							
	10	自然との関わり⑥	保育における「食」との関わりについて学ぶ。							
	11	自然との関わり⑦	保育における「植物・生物」との関わりについて学ぶ。							
	12	自然との関わり⑧	保育における「人・地域」との関わりについて学ぶ。							
	13	野外保育活動①	身近な自然の現状を理解する。							
	14	野外保育活動②	火起こし体験。							
	15	野外保育活動③	自然と食との繋がりを理解する。							
16	定期試験	筆記試験				これまでの復習をする				
DP	学修方法	テキスト		参考書		教員からのメッセージ				
1	講義を聞いてのディスカッションや学内外での体験学習を取り入れます。	なし		なし		身のまわりの自然について理解を深め、保育の中に活かせる力を身につけましょう。				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件			
評価項目	配分(%)	評価基準				月曜日3時限	なし			
定期試験	50	筆記試験				受講前に学習すること				
グループワーク	30	各活動における参加状況								
レポート	20	指示された課題への取り組み				なし				

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
17	保育・教育相談	2	30	選択 (免必・保選)	講義	2年	後期	田中 秀明
実務経験と授業科目との関連性		児童発達支援センター、放課後等デイサービス、認定こども園等での心理臨床活動経験を踏まえ、保育・教育相談の意義と基礎的理論およびカウンセリング技法について講義を行う。						
講義目的		保育・教育相談の意義・基礎的理論を学び、ロールプレイなどを通してカウンセリング技法を身につける。さらに子どもの不適応・問題行動の事例をとりあげ保育場面での展開を考える。						
到達目標		1. 子どもの心理的特質や教育的課題について理解している。 2. カウンセリングの理論・基本的な技法を身につける。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	保育・教育場面における現代的課題	子ども・子育て環境の変化から生じた保育・幼児教育に関わる課題を学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	2	保育・教育相談の意義	保育・教育場面におけるさまざまな課題を理解し、保育・教育相談の目的・意義を学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	3	保育者に求められるカウンセリングマインド	保育者に求められるカウンセリングマインドとは何か、またその必要性について学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	4	カウンセリングに関わる基礎的な理論	保育・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	5	カウンセリングにおける3つの条件	カウンセリングの基礎理論を学び、3つの基本的条件を理解する。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	6	コミュニケーションの基礎 ① 話す・きく	コミュニケーションの基礎となる話す力・きく力の重要性について学び、ロールプレイを通して高める。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	7	コミュニケーションの基礎 ② みる	ノンバーバル・コミュニケーションの重要性を理解し、みる力を高める。			身体が発するサインをリストアップする。		
	8	傾聴とは	カウンセリングにおける傾聴と助言、さまざまな技法についてロールプレイを通して体験的に学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	9	受容と共感	カウンセリングにおける基本的姿勢と技法について学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	10	保育・教育相談の進め方	子どもや保護者に対する相談を行う際の目標の立て方や進め方を学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	11	子どもの不適応・問題行動の捉え方	子どもの不適応・問題行動の意味、子どもの発するシグナルに気づく方法について学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	12	子どもに対する支援の実際(事例をよむ)	子どもの発達段階や発達課題に応じた相談の進め方を事例を通して学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	13	保護者に対する支援の実際(事例をよむ)	保護者が抱えるさまざまな問題、親子関係から生ずる子どもの問題について事例を通して学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	14	保育者の連携・チームワークによる支援体制	相談計画の作成や必要な園内体制の整備など、組織的な取りくみの必要性を学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
	15	地域の専門機関との連携	地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性について学ぶ。			テキスト・プリント教材をよむ。		
16	定期試験	筆記試験			指示された試験範囲について準備する。			
DP	学修方法		テキスト	参考書		教員からのメッセージ		
2	1. テキスト・プリントを用いた講義 2. ロールプレイ等による体験的学習、主題に応じてグループワークと発表を取り入れる		大竹直子著「やさしく学べる保育カウンセリング」(金子書房)	なし		ケアスペシャリストとしての力を高めるため、カウンセリングの基礎技法を身につけましょう。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			なし		
定期試験	60	筆記試験の記述内容						
課題に応じたレポート	40	指示された課題へのとりくみと内容			受講前に学習すること 実習などで出会った子どものつまずきに関する事例について振り返ってみる。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
18	子どもの音楽Ⅱ	1	15	選択 (保選)	演習	2年	前期	山田 真治	
実務経験と授業科目との関連性		中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。							
講義目的		保育現場での総合的な音楽表現活動に対応するために、打楽器奏法、歌唱、アンサンブル、創作等の技術を修得する。また子どもの発達に必要な音楽教材の選び方、教材の作成を通し、より良い環境について理解する。							
到達目標		保育現場での総合的な音楽表現活動に対応するためにリズム楽器を用い、ピアノを中心としたアンサンブル演奏ができる。また子どもの発達に必要な音楽教材の選び方や、教材の制作を通し、より良い音楽環境を作ることができる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	楽曲の選出	現場で使用されているアンサンブルに相応しい楽曲を選出する			シラバスよく見ておく			
	2	リズムの考案	リズム楽器の特性を考慮し楽曲に相応しいリズムを考案する			楽器の特性の復習			
	3	アンサンブル(1)	ピアノとリズム楽器のアンサンブルをする			担当楽器のリズム練習			
	4	アンサンブル(2)	楽曲を替え、ピアノとリズム楽器のアンサンブルをする、完成度の確認テスト			担当楽器のリズム練習			
	5	アンサンブル(3)	リズム楽器を替え、ピアノとリズム楽器のアンサンブルをする			担当楽器のリズム練習			
	6	アンサンブル(4)	音のバランスに考慮した練習を行う			担当楽器のリズム練習			
	7	アンサンブル指導法	アンサンブル教材の選び方を学ぶ			アンサンブルの難点確認			
	8	演奏発表	グループ毎の演奏発表を行う			発表の準備			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
5	小グループによるアンサンブルを体験し、リズム感を学んでいく。一つの楽器だけでなくできるだけ多くの楽器に触れながら楽器の特性を学んでいく。		「保育のピアノ伴奏」阿部直美監修(日本文芸社)、「改訂実習現場で使用された子どもの歌」(学術文芸出版)		「幼児の歌110曲集」(A TM出版)		小グループのアンサンブル形式で授業が展開されますので欠席しないようにして下さい。		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			火曜日5時限		なし	
演奏発表		80	リズム業務の適用性			受講前に学習すること			
毎回の授業の課題進捗状況		20	演奏レベルの向上性						
						保育で使用されるリズム楽器にはどのようなものがあるか、確認しておいて下さい。			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
19	子どもと絵本	1	15	選択 (保選)	演習	2年	前期	生田 恵津子	
実務経験と授業科目との関連性									
講義目的		将来、子どもと文学をつなぐ仕事に就くことを意識しながら、優れた「絵本」とは何か、また、どのように子ども達に渡していくかを学ぶ。							
到達目標		1) 子どもの発達に合わせた絵本の選び方を学び実践に生かすことができる。 2) 絵本ができあがる過程を知り、作者や編集者が子ども達に伝えたい思いを考えたり、読み方与え方について説明できる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	子どもにとって絵本とは	絵本とはどういうものかを考え、優れた絵本の選び方を学ぶ			絵本とは何かを考えてくる			
	2	絵本の入り口	ブックスタート事業・セカンドブック業・サードブック事業などを調べ、絵本によって育まれるものを学ぶ			読書啓発事業について調べてくる			
	3	子どもの発達と絵本① 0, 1 歳児	0, 1 歳児の発達に応じた絵本について学ぶ			対象年齢に合わせた絵本を選んで持参する			
	4	子どもの発達と絵本② 2 歳児	2 歳児の発達に応じた絵本について学ぶ			対象年齢に合わせた絵本を選んで持参する			
	5	子どもの発達と絵本③ 3 歳児	3 歳児の発達に応じた絵本について学ぶ			対象年齢に合わせた絵本を選んで持参する			
	6	子どもの発達と絵本④ 4 歳児	4 歳児の発達に応じた絵本について学ぶ			対象年齢に合わせた絵本を選んで持参する			
	7	子どもの発達と絵本⑤ 5 歳児	5 歳児の発達に応じた絵本について学ぶ			対象年齢に合わせた絵本を選んで持参する			
	8	ビブリオバトル	人を通して本を知る、本を通して人を知る			3分で1冊を語れるように練習して臨む			
	9	定期試験	筆記試験						
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ		
5	講義のほか・グループ討議・読み聞かせプログラムの実践などを行う。		なし		なし		1冊でも多くの絵本を読んでもください		
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			木曜日 5 時限		なし	
受講状況		50	積極的発言			受講前に学習すること			
定期試験		50	筆記試験						
						なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
20	生涯スポーツ II	1	15	選択 (保選)	演習	2年	後期	白金 俊二
実務経験と授業科目との関連性		小学校・中学校での教員経験を踏まえ、各種目の特性の知識、安全に楽しむ資質や能力をいくつかの種目の演習により習得する。						
講義目的		フットサルやスノースポーツを安全に楽しく行う能力を身に付け、生涯にわたってスポーツを楽しむ資質や能力を育成する。						
到達目標		1) ゴール型球技としてのフットサルの特性やルールを理解し、楽しく追究するために必要な教材化について考えることができる 2) スノースポーツ (スキー・スノーボード) の特性を理解し、安全に行うことができる						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	フットサルの特性やルールの理解 1	フットサルの特性について理解する			シラバスを読む		
	2	フットサルの特性やルールの理解 2	フットサルの特性やルールについて理解する			基礎的スキルについて調べておく		
	3	フットサルの基礎的スキルの理解	ドリブル、パス、シュートなどに必要なスキルについて理解する			基礎的スキルについて調べておく		
	4	スノースポーツ学修	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に基礎技術や応用技術を学ぶ ・そり遊びなどを含めた雪上活動時の安全対策のポイントの確認し、理解する 			実施計画を読み、準備品について確認しておく		
	5							
	6							
	7							
	8							
	9							
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ			
5	チーム・グループを適宜編成し、自己評価カードを用いて運動の理解度を確認する		「スポーツの実践と教材化」 白金俊二 (学術文芸出版)	なし	ケガをしないよう取り組みましょう			
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分 (%)	評価基準			金曜日 5 時限	なし	
運動の理解		50	自己評価カード					
運動の技能		50	自己評価カード			受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
21	子どもと造形表現論	2	30	選択 (保選)	講義	2年	後期	米窪 洋介
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		子どもの造形活動について、表現の意義や目的を理解する共に、多様な表現方法を学び、表現を通した子どもの育ちについて考える。						
到達目標		1) 子どもの造形活動における表現の意義や目的を説明することができる。 2) さまざまな表現を通した子どもの育ちについて説明することができる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	オリエンテーション	授業の進め方と到達目標を確認する。			シラバスを確認しておく。		
	2	発達と表現 絵の具あそび①	絵の具の特性や性質を理解する。			振り返りをレポートにまとめる。		
	3	発達と表現 絵の具あそび②	着色について表現方法の違いを理解する。			振り返りをレポートにまとめる。		
	4	発達と表現 絵の具あそび③	偶然性を用いた表現方法を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。		
	5	発達と表現 絵の具あそび④	身体を用いた表現方法を理解する。			振り返りをレポートにまとめる。		
	6	発達と表現 絵の具あそび⑤	色が持つ心理的側面を理解する。			振り返りをレポートにまとめる。		
	7	発達と表現 色鉛筆あそび	凸凹を活かした表現方法を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。		
	8	発達と表現 版画	色を写し取る表現について学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。		
	9	発達と表現 粘土あそび	感触を伴う表現方法を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。		
	10	発達と表現 クレヨンあそび	描画材の特性を理解する。			振り返りをレポートにまとめる。		
	11	発達と表現 コマあそび	動きによる色彩の変化について学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。		
	12	発達と表現 段ボール工作	廃材を用いた表現について学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。		
	13	発達と表現 ローラーあそび	さまざまな道具による表現の違いを学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。		
	14	展示・鑑賞について	作品の展示・鑑賞の方法を理解する。			振り返りをレポートにまとめる。		
	15	教材研究について	子どもの発達に応じた教材の選び方を学ぶ。			振り返りをレポートにまとめる。		
16	定期試験	筆記試験を行う。			定期試験の準備をする			
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
5	アクティブラーニングを取り入れながら講義を進めます。		佐善圭「造形のじかん」(愛智出版)		汐見稔幸他監修「(平成30年施行)保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント」(ミネルヴァ書房)		子どもの造形表現について知識を深め、子ども理解に繋がります。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			月曜日3時限		なし
定期試験		50	筆記試験の得点			受講前に学習すること		
レポート		50	各課題の振り返りの内容					
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員	
22	幼児保育特講	2	30	選択 (保選)	演習	2年	前期	齋藤 博紀	
実務経験と授業科目との関連性									
講義目的		保育者として実践に役立つ知識・技術を習得する。							
到達目標		1) 保育の知識・技術を仲間へ伝えあい、応用することができる。 2) 保育実践に伴う協働作業へ積極的に取り組むことができる。 3) 実践の場で、保育者の立場を意識しながら子どもや保育者と関わることができる。							
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員	
	1	オリエンテーション	授業の目的、学習方法、内容などについて確認する。			シラバスを読む。 授業の復習をする。			
	2	保育音楽の理解	保育者として子どもの声、音感、リズムの発達を理解し、音楽での寄り添い方を理解する。						
	3	読譜トレーニング	グループに分かれて高音部譜表の読譜練習をする。						
	4	リズムトレーニング	グループに分かれて低音部譜表の読譜練習をする。 読譜、リズムの確認テスト。						
	5	保育で使われる生活の歌①	保育で使われる生活の歌をグループに分かれ集める。						
	6	保育で使われる生活の歌②	グループに分かれ保育で使われる生活の歌を互いにピアノで弾き歌いをする。						
	7	保育で使われる生活の歌③	グループに分かれ保育で使われる生活の歌をアレンジする。生活の歌の確認テスト。						
	8	親子・保育者で歌える行事の歌①	お誕生会の歌・子どもの日の歌をグループに分かれて互いに歌い合う。			事前学修は、教員が指定する事前課題に取り組む。 事後学修は、授業の復習を行う。			
	9	親子・保育者で歌える行事の歌②	入園式・卒園式の歌をグループに分かれて互いに歌い合う。						
	10	親子・保育者で歌える行事の歌③	たなばた・クリスマス・ひな祭りの歌をグループに分かれて互いに歌い合う。行事の歌の確認テスト。						
	11	保育で使われる季節の歌①	春(3・4・5月) 夏(6・7・8月)の歌をグループに分かれて互いに歌い合う。						
	12	保育で使われる季節の歌②	秋(9・10・11) 冬(12・1・2月)の歌をグループに分かれて季節の歌を互いに歌い合う。						
	13	保育で使われる季節の歌③	模擬保育を想定し、保育士、園児に分かれ、季節外の歌を互いに歌い合う。季節の歌の確認テスト。						
	14	ピアノ弾き歌い①	保育場面を想定し、ピアノの弾き歌い発表をする。						
	15	ピアノ弾き歌い②	保育場面を想定し、ピアノの弾き歌い発表をする。						
DP		学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
8	ピアノ弾き歌いと読譜、リズムトレーニングを組み合わせ演奏力を高める。グループでの歌唱活動を積極的に行うことにより、保育者としての指導力を身に付ける。課題を録音し、到達レベルを確認する。	山田真治「音楽表現の基礎」(ムジカ出版)、「改訂実習現場で使用された子どもの歌」(学術文芸出版)、阿部直美監修「保育のピアノ伴奏」(日本文芸社)	なし	毎回の課題を1週間かけて勉強してきて下さい。レベルアップは間違いありません。					
成績評価方法					オフィスアワー			履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準			火曜日5時限			なし	
弾き歌い発表	50	保育者の立場で歌が歌える							
演習への取り組み、確認テスト	50	課題曲数と完成度、主体性			受講前に学習すること				
					なし				

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
23	教育実習指導	1	30	選択 (免必)	演習	1年 2年	後期 前期	高橋 典子
実務経験と授業科目との関連性		幼稚園現場経験を踏まえ、実習に必要な事項全般について指導を行う。						
講義目的		教育実習に入る事前学習として、基本的知識と保育技術を学ぶ。事後学習で実習をより有意義な体験に高め、今日における幼児教育の課題や幼稚園教諭・保育教諭としての自己の適性、将来の目標として考える機会となるようにする。						
到達目標		幼稚園等の機能や役割、幼児教育の基本について説明できる。子どもの発達過程や興味・関心に合わせた指導計画を立案できる。実習の省察を通して自己課題を明確にし、幼稚園教諭等としての倫理観、使命感について説明できる。						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	ガイダンス	教育実習の意義と目的、計画、手続きについて理解する(各種書類等確認)			実習要領の確認		
	2	オリエンテーションについて	自己課題の設定とオリエンテーションの内容確認			自己課題の整理		
	3	実習記録について	実習記録による省察の意義と記述法の指導			実習記録の事前記入		
	4	子ども理解と保育方法	責任実習の基本の確認			遊びの研究と主活動の選定		
	5	指導計画の作成	課題活動の指導案を作成する			指導案作成		
	6	教育実習(1年次)の事後指導①	自己評価を通して実習内容を振り返る			実習内容の整理		
	7	教育実習(1年次)の事後指導②	園からの評価を通して実習内容を振り返る			実習内容の整理		
	8	ガイダンス	各種書類の確認、園からの評価を通して実習内容を振り返り、目標をたてる			1年次の実習日誌の読み返し		
	9	実習記録について	記述法の指導、エピソード記述についてのワークをする			実習記録の事前記入		
	10	指導計画の作成①	課題活動の指導案を作成する			遊びの研究と主活動の選定		
	11	指導計画の作成②	年齢ごとの発達を確認する			遊びの研究と主活動の選定		
	12	指導計画の作成③	一日の指導計画を作成する			遊びの研究と主活動の選定		
	13	実習後の手続	実習後に行う手続の確認			配布書類の確認をする		
	14	教育実習(2年次)の事後指導①	自己評価と園からの評価を通して実習を振り返る			実習日誌の読み返し		
	15	教育実習(2年次)の事後指導②	まとめと今後の目標の設定			これまでの要点整理		
16								
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
3	講義、グループ討議、個別ワーク 1年次に第1～7回、2年次に第8～15回の授業を行います。		田中まさ子編「三訂 幼稚園・保育所実習ハンドブック」(みらい)、生田恵津子他「教育・保育実習ガイド」(学術文芸出版)		授業内で適宜紹介する		事前・事後学修を通して実習での学びを深めましょう。	
成績評価方法					オフィスアワー		履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準		木曜日5時限		なし	
事前準備		30	事前準備の充実度		受講前に学習すること			
事後報告		30	報告内容の充実度					
提出物		40	指導案の充実度		なし			

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員			
24	教育実習	4	180	選択 (免必)	実習	1年 2年	後期 通年	山田 田中 黒田	生田 山藤 田岡	永石 米窪 齋藤	白金 高橋 (博)
実務経験と授業科目との関連性											
講義目的		幼児や幼稚園について理解を深め、具体的な経験を通して幼児教育の内容・方法や保育者に求められる資質や専門性について学習する。									
到達目標		幼稚園・認定こども園の機能、保育者の役割、保育者の資質や専門性について説明できる。観察・責任実習等の具体的な活動を通して、幼児教育の内容・方法について理解できる。									
教 育 内 容	本日の主題	授業概要					事前・事後学修	担当教員			
	<p>1. 2年次での実習課題を明確にし、実習課題に取り組む。</p> <p>2. 実習記録の書き方や実習計画の立て方について理解し、実践する。</p> <p>3. 観察及び参加実習に加え、責任実習（部分実習、全日実習）に取り組む。</p> <p>4. 実習生としての自覚や責任感を持って実習に取り組む。</p> <p>5. 実習後の振り返りを通して、今後の学習課題を明確にする。</p> <p>*上記について、文部科学省基準に基づき、幼稚園・認定こども園（幼保連携型又は幼稚園型）において10日間の実習を行う。</p>										
DP	学修方法	テキスト		参考書		教員からのメッセージ					
3	幼稚園、幼保連携型又は幼稚園型認定こども園における観察および実践	なし		生田恵津子他 「教育・保育実習ガイド」 (学術文芸出版)		1年次の実習で明確となった課題を確認し、2年次の実習に臨んでください。					
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件			
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること		実習指導科目の別規定に拠る			
実習状況		50	実習自己課題・実習日誌								
実習園の評価		50	実習園からの評価			受講前に学習すること					

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
25	保育実習指導Ⅱ	1	15	選択 (保選必)	演習	2年	前期	生田 恵津子
実務経験と授業科目との関連性		保育現場経験を踏まえ、保育実践の展開に必要な事項全般について指導を行う						
講義目的		保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、既修得科目で得た知見や実習経験を生かし、指導計画の立案、実践ができるようになるとともに、自己の課題を明確化できる。						
到達目標		1) 既修得科目やこれまでの教育・保育実習、園交流などでの学びを基に指導計画が立案できる 2) 実践を可能とする保育の知識・技術を身につける 3) 保育の今日的課題に目を向け説明できる						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修	担当教員	
	1	ガイダンス	自身のキャリア選択を視野に科目について考える			なし		
	2	実習先確保	保育実習申込書を作成し、提出する			なし		
	3	オリエンテーションの依頼と内容	オリエンテーションの内容を理解し、依頼する			なし		
	4	子どもの発達と保育	年齢ごとの発達を踏まえた保育の内容と展開を復習する			年齢別の発達を復習してくる		
	5	指導計画作成 集団遊び	担当年齢に合わせた主活動の指導計画を立てる			年齢別の発達を復習してくる		
	6	指導計画作成 制作活動	担当年齢に合わせた主活動の指導計画を立てる			年齢別の発達を復習してくる		
	7	実習報告会①	実習報告①を通して、自己の課題を明確にする			実習報告書①を記入してくる		
	8	実習報告会②	実習報告②を通して、自己の課題を明確にする			なし		
9	/							
DP	学修方法		テキスト		参考書	教員からのメッセージ		
3	テキスト・配布資料をもとに演習形式で、より実践的な学びを展開する		「教育・保育実習ガイド」生田恵津子他(学術文芸出版)		なし	自身のキャリア選択をしっかり考えて臨んでください。		
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目		配分(%)	評価基準			木曜日 5 時限	なし	
実習事前準備		40	講義への参加状況					
各種提出物		30	期限遅延は減点対象			受講前に学習すること		
実習事後報告		30	学びの内容を評価					
						保育実習Ⅰでの課題を明確にしておく		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
26	保育実習Ⅱ	2	90	選択 (保選必)	実習	2年	前期	山田 生田 永石 白金 田中 山藤 米窪 高橋 黒田 田岡 齋藤 (博)
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		1) 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める 2) 子どもの観察や関わりを明確にすることを通して、保育の理解を深める 3) 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する				4) 保育の計画・実践・観察・記録および自己評価などに実際に取り組み、理解を深める 5) 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践と結びつけて理解する 6) 実習における自己課題を明確にする		
到達目標		1) これまでの学びの上に、実際の場面を通して、子どもの姿の捉え方、子ども理解について学び、適切な子どもとのかかわりや援助の仕方を身につける。 2) 保育の計画・実践・記録・省察の中から、自己評価に基づく自己課題を説明できる。						
教育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員	
	<p>1、保育所の役割や機能を具体的に学ぶ (1) 養護と教育が一体的に展開される保育の実際を学ぶ (2) 保育所の社会的役割と責任を知る</p> <p>2、観察に基づいた保育の理解を学ぶ (1) 子どもの心身の状態や活動の観察をする (2) 保育士等の援助や関わりを学ぶ (3) 保育所の生活の流れや、展開を把握する</p> <p>3、子どもの保育及び保護者支援、地域との連携を知る (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に展開される保育の実際を学ぶ (2) 保護者に対する子育て支援や地域とのかかわりの様子を観察する</p> <p>4、指導計画の立案・実践・観察・記録・評価について学ぶ (1) 全体的な計画に基づく指導計画の実際を知る (2) 作成した指導計画に基づく保育実践とその評価をする</p> <p>5、保育士の業務と職業倫理について理解する (1) 多様化する保育ニーズについて知り、保育士の業務を知る (2) 多様な保育の展開と、求められる保育士の職業倫理について理解する</p> <p>6、自己課題を明確化する</p> <p>※上記について、保育実習実施基準に基づき、保育所・認定こども園（幼保連携型又は保育所型）において11日間の実習を行う。</p>							
DP	学修方法	テキスト	参考書	教員からのメッセージ				
3	部分実習・全日実習	なし	生田恵津子他 「教育・保育実習ガイド」 (学術文芸出版)	キャリア選択に向けて自己 課題を明確にしてほしいと 思います				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件	
評価項目	配分(%)	評価基準		各教員のオフィスアワー を確認すること		なし		
実習状況	50	実習自己課題への取り組み・実習日誌						
実習先の評価	50					受講前に学習すること		
						なし		

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員
27	保育実習指導Ⅲ	1	15	選択 (保選必)	演習	2年	前期	田岡 紀美子
実務経験と授業科目との関連性								
講義目的		保育実習Ⅲを行う意義等を理解し、実習に必要な準備を行う。加えて、既習教科での知見を活かして個別支援計画及び自立支援計画等の立案、展開方法を理解する。事後指導では、振り返りを通して施設保育士の専門性や職業倫理を理解するとともに、自身の課題等を明確にする。						
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 2. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 3. 施設保育士の専門性と職業倫理について理解を深める。 4. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 						
教 育 内 容	本日の主題		授業概要			事前・事後学修		担当教員
	1	保育実習Ⅲの目的①（実習先の選定を含む）	既習教科の内容を踏まえた実習の意義を理解する。また、実習希望施設への受け入れ調整を行う。			保育実習Ⅰを振り返り、課題等を整理しておく。		
	2	保育実習Ⅲの目的②（実習先の選定を含む）	既習教科の内容を踏まえた実習の意義を理解する。また、実習希望施設への受け入れ調整を行う。			保育実習Ⅰを振り返り、課題等を整理しておく。		
	3	実習の各段階と学習内容	保育実習Ⅲの実習初期・中期・後期における学習内容について学ぶ。			保育実習Ⅰの学習内容について復習する。		
	4	実習研究課題の設定	実習目標及び、各々の課題達成方法や事前学習の内容等を設定する。			実習目標、行動計画の用紙を完成させてくる。		
	5	実習計画の作成	オリエンテーション等で得た情報等を基に、実習中に実践する行動計画を立案する。			実習日誌の事前学習を完成させてくる。		
	6	実習に際しての留意事項	実習中の心構え他、守秘義務について理解する。			テキスト等の倫理綱領や行動指針等を読み込むこと。		
	7	実習直前指導	実習の手引きに沿いながら、重要事項の最終確認等を行う。			実習記録の記載箇所点検をする。		
	8	[事後指導]実習の総括と課題の明確化	実習後の各取り組みの内容を整理して、総括として実習報告書を作成する。			実習反省記録を作成しておくこと。		
9	/							
DP	学修方法		テキスト		参考書		教員からのメッセージ	
3	テキストや配付資料、教育・保育実習ガイドなどをもとに、演習形式で展開する。		喜多一恵他「五訂福祉施設実習ハンドブック」(みらい)、「保育福祉小六法」保育小六法編集委員会編(みらい)、「教育・保育実習ガイド」生田恵津子他(学術文芸出版)		なし		保育実習Ⅰ(施設)での経験・体験をいかしながら、高度な専門性が身に付けられるよう取り組みましょう。	
成績評価方法						オフィスアワー		履修条件
評価項目		配分(%)	評価基準			木曜日5時限		なし
実習事後報告		40	各施設での実習内容について報告			受講前に学習すること		なし
事前準備状況		30	連絡状況や講義への参加状況等					
各種提出物		30	遅延等は大幅な減点対象とする。					

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員			
28	保育実習Ⅲ	2	90	選択 (保選必)	実習	2年	前期	山田 田中 黒田	生田 山藤 田岡	永石 米窪 齋藤	白金 高橋 (博)
実務経験と授業科目との関連性											
講義目的		既習科目や、保育士体験・保育実習Ⅰ・園交流などでの学びの上に子どもの姿の捉え方と、そこから始まる保育の計画、その実践を可能にする保育の知識、技術を学ぶ。また、保育の今日的課題に触れることで、自身の将来の目標などについて考える機会とする。									
到達目標		子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わりや保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践などを理解している。また、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にできる。									
教 育 内 容	本日の主題	授業概要					事前・事後学修	担当教員			
	<p>1 養護全般に参加し、援助技術を修得する。 (1) 保育士の職務を理解し、日々の生活を通してその役割を学ぶ。</p> <p>2 子どもの個人差について理解し、対応方法を修得する。 (1) 子どもに共感し、受容する態度を修得する。 (2) 発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。</p> <p>3 援助計画を立案し、実際に実践する。 (1) 援助計画を立案し、指導担当職員の元で実践する。</p> <p>4 家族支援の内容を具体的に修得する。 (1) 保護者との関わりを通してコミュニケーションの方法を学ぶ。</p> <p>5 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 (1) 地域の子育て支援のニーズを理解し、施設の役割について学ぶ。 (2) 地域の社会資源との連携について理解する。</p> <p>6 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 (1) 子どもの権利擁護の実際について学ぶ。 (2) 保育士の援助の方法や対応から、その姿勢を学ぶ。</p> <p>7 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ。 (1) 守秘義務の遵守について、実際に理解する。 (2) 保育士の具体的な職業倫理について学ぶ。</p> <p>8 児童福祉施設等の保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせ自己の課題を明確化する。 (1) 施設保育士に必要な専門性について理解する。 (2) 実習を通して得た問題や課題を確認し、それらを実現させる具体的な方法について検討する。</p> <p>※上記について、保育実習実施基準に基づき、指定された施設において概ね 11 日間の実習を行う。</p>										
DP	学修方法	テキスト		参考書		教員からのメッセージ					
3	社会福祉施設等での実践	なし		生田恵津子他 「教育・保育実習ガイド」 (学術文芸出版)		実習を通して、保育士に求められる力量が高まってくことを期待しています。					
成績評価方法							オフィスアワー	履修条件			
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること		なし			
実習先の評価		50	実習先からの評価								
実習前後の取り組み		50	実習前後の手続きや振り返りを含め評価			受講前に学習すること					
							なし				

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員		
29	保育・教職実践演習 (幼稚園)	2	30	必修	演習	2年	後期	田中 山藤 米窪 高橋 黒田 齋藤(博)		
実務経験と授業科目との関連性	以下の教員は、それぞれの勤務・活動経験を踏まえ、実践的な授業を展開する。 【田中：臨床活動、齋藤：中学校教諭、山藤、高橋：保育職員、黒田：小学校教諭】									
講義目的	保育・教職に関する学修内容を確認し、それを基に実践力を充実させるためにグループワークにより模擬授業等を行い学び合う。地域や幼稚園との連携を図り、学生の主体的な計画により保育の実践力を高める。									
到達目標	1) 保育に必要な専門知識及び技術、総合的な判断力、倫理観等の習得・形成の状況と、自己課題を説明できる。 2) 保育実践に求められる基礎的資質・能力を身につけている。									
教 育 内 容	本日の主題	授業概要				事前・事後学修		担当教員		
	1	オリエンテーション	授業のねらい及び内容について確認する。				これまでの実習日誌を読み直す		全担当教員	
	2	自己課題の発見	履修カルテ、実習日誌を振り返り、自己の課題を明確にする。						全担当教員	
	3	模擬保育の準備 1	グループ分けをし、活動内容の選定及び指導案の作成を行う。				準備品を確認し、模擬保育に向けて準備を行う		全担当教員	
	4	模擬保育の準備 2	グループごとに模擬保育に向けての役割分担を行う。						全担当教員	
	5	模擬保育の準備 3	グループごとに役割に添って模擬保育の準備を行う。						全担当教員	
	6	模擬保育の準備 4	グループごとに役割に添って模擬保育の準備を行う。						全担当教員	
	7	模擬保育の準備 5	グループごとに役割に添って模擬保育の準備を行う。						全担当教員	
	8	模擬保育の準備 6	グループごと、各自に分担された作業を進める。						全担当教員	
	9	模擬保育の準備 7	グループごと、各自に分担された作業を進める。						全担当教員	
	10	模擬保育の準備 8	グループごと、各自に分担された作業を進める。						全担当教員	
	11	模擬保育の準備 9	グループごとに指導案と準備の確認を行う。						全担当教員	
	12	模擬保育 1	園児との交流を通し、保育者に求められる指導力について学ぶ。				模擬保育で得た学びをレポートにまとめる		全担当教員	
	13	模擬保育 2	園児との交流を通し、保育者に求められる表現力について学ぶ。						全担当教員	
	14	模擬保育 3	園児との交流を通し、自己の指導力・表現力について考察する。						全担当教員	
	15	まとめ	模擬保育の反省と2年間の学びの振り返りを行う。				履修カルテの確認を行う		全担当教員	
16	/									
DP	学修方法	テキスト		参考書		教員からのメッセージ				
3	授業テーマに応じて資料を配布する。指導計画に基づく模擬保育、グループワーク、ロールプレイ、園児との交流や実践に対する評価を行う。	なし		「実習現場で使用された子どもの歌」(学術文芸出版)		実践的な学びを通じて、保育者として求められる資質・能力を理解し、習得しましょう。				
成績評価方法						オフィスアワー	履修条件			
評価項目		配分(%)	評価基準			各教員のオフィスアワーを確認すること		なし		
授業への参加状況		60	課題・体験学習等への取り組み							
課題・レポート		40	提出状況と内容			受講前に学習すること				
						なし				

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	授業形態	開講年次	開講時期	担当教員			
30	応用ゼミナール	2	60	必修	演習	2年	通年	山田 田中 黒田	生田 山藤 田岡	永石 米窪 齋藤	白金 高橋 (博)
実務経験と授業科目との関連性											
講義目的		各ゼミごとに卒業研究テーマを選定し、問題を深く掘り下げ、解決する態度を養う。									
到達目標		1) 卒業研究テーマについて、課題を探究することができる。 2) 主体的・能動的に研究し、まとめ、発表することができる。									
教 育 内 容		本日の主題	授業概要				事前・事後学修	担当教員			
	1	オリエンテーション①	卒業研究の進め方、内容について確認する。				各ゼミの課題に取り組む	担当教員全員			
	2	オリエンテーション②	卒業研究のテーマを選定する。				同 上	同 上			
	3	卒業研究	担当教員の指示に基づき、卒業研究テーマに取り組む。				同 上	同 上			
	4	同 上	同 上				同 上	同 上			
	5	同 上	同 上				同 上	同 上			
	6	同 上	同 上				同 上	同 上			
	7	同 上	同 上				同 上	同 上			
	8	同 上	同 上				同 上	同 上			
	9	同 上	同 上				同 上	同 上			
	10	同 上	同 上				同 上	同 上			
	11	同 上	同 上				同 上	同 上			
	12	同 上	同 上				同 上	同 上			
	13	同 上	同 上				同 上	同 上			
	14	同 上	同 上				同 上	同 上			
	15	同 上	同 上				同 上	同 上			
16	同 上	同 上				同 上	同 上				

教育 内 容	17	卒業研究	担当教員の指示に基づき、卒業研究テーマに取り組む。	各ゼミの課題に取り組む	担当教員全員
	18	同 上	同 上	同 上	同 上
	19	同 上	同 上	同 上	同 上
	20	同 上	同 上	同 上	同 上
	21	同 上	同 上	同 上	同 上
	22	同 上	同 上	同 上	同 上
	23	同 上	同 上	同 上	同 上
	24	卒業研究発表会の準備①	卒業研究発表会に向けて、研究成果をまとめる。	同 上	同 上
	25	卒業研究発表会の準備②	卒業研究発表会の発表用の資料を作成する。	同 上	同 上
	26	卒業研究発表会の練習	卒業研究に備えて、プレゼンの練習をする。	同 上	同 上
	27	卒業研究発表会①	研究発表を行い、参加者からの質問に答える。	同 上	同 上
	28	卒業研究発表会②	各ゼミの卒業研究を聞き、研究成果を知る。	同 上	同 上
	29	卒業研究発表会③	それぞれのゼミの卒業研究を聞き、質問をする。	同 上	同 上
30	応用ゼミナールのまとめ	1年間の応用ゼミナールを振り返り、まとめる。	同 上	同 上	
31					
DP	学修方法		テキスト	参考書	教員からのメッセージ
8	各ゼミが設定したテーマについて、担当教員の指導を受けながら、主体的に進める。		各教員の指示による	各教員の指示による	2年間の学びの集大成として取り組みましょう。
成績評価方法				オフィスアワー	履修条件
評価項目		配分(%)	評価基準	各教員のオフィスアワーを確認すること	なし
各ゼミの総合評価		100	ゼミ活動への参加度、研究に取り組む姿勢、研究発表等、配分はゼミによって異なる		
				受講前に学習すること	
				基礎ゼミナールを振り返り、卒業研究テーマについて考えをまとめておく。	

IV. 教員担当科目一覧

令和5年度 幼児保育学科 専任教員担当科目一覧

氏 名	担 当 科 目
山 田 真 治	保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現) 子どもと音楽表現 子どもと身体表現 子どもの音楽Ⅰ 子どもと音楽Ⅱ 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
生 田 恵津子	保育原理 保育内容 総論 子どもと絵本 保育実習指導Ⅰ 保育実習指導Ⅱ 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
永 石 喜代子	子どもの保健 子どもと健康と安全 生命倫理 子ども家庭支援論 特別な支援を必要とする子どもの理解と方法 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
白 金 俊 二	健康と運動Ⅰ 健康と運動Ⅱ 保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現) 子どもと健康 子どもと運動遊び 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
田 中 秀 明	保育・教育の心理学 子ども家庭支援論の心理学 子どもの理解と援助 保育・教育相談 こころの科学 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
山 藤 宏 子	保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係) 子どもと人間関係 ことばと表現 保育内容の指導法Ⅲ(言葉) 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
米 窪 洋 介	地域交流実践 保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現) 子どもと造形表現 いのちと環境 子どもと造形表現論 保育・教職実践演習(幼稚園) 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
高 橋 典 子	乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 子どもと環境 教育実習指導 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
黒 田 和 子	教育原理 保育者論 教育課程の編成と評価 幼児教育の方法 子育て支援 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
田 岡 紀美子	社会福祉 社会的養護Ⅰ 社会的養護Ⅱ 子ども家庭福祉 保育実習指導Ⅰ 保育実習指導Ⅲ 教育実習 保育実習ⅠⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
齋 藤 博 紀	キャリア形成Ⅰ キャリア形成Ⅱ 保育・教職実践演習(幼稚園) 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール 幼児保育特講

令和5年度 幼児保育学科 兼任講師担当科目一覧

氏名	授業科目
高下 梓	情報処理演習

令和5年度 幼児保育学科 兼任講師担当科目一覧

氏名	授業科目
飯田 しのぶ	子どもの音楽 I
伊東 和広	暮らしの中の数学
金枝 真佐尋	暮らしの中の憲法
鎌倉 哲子	子どもの音楽 I
黒澤 優子	英語表現
齊藤 俊子	子どもの音楽 I
高倉 美和	子どもの音楽 I
野田 あゆ子	子どもの音楽 I
古屋 顕一	健康と運動 II
水野 尚子	子どもの食と栄養
山口 真理	子どもの音楽 I
輪湖 直子	子どもの音楽 I

学校所在地

松本短期大学	〒399-0033 松本市笹賀3118	0263-58-4417
--------	------------------------	--------------

令和5年度 シラバス〈履修ガイド〉 幼児保育学科

発行 令和5年4月1日
松本短期大学
〒399-0033
松本市笹賀3118
電話 0263-58-4417

印刷所 アサカワ印刷株式会社
〒399-0005
松本市野溝木工1丁目6番34号
電話 0263-25-5600